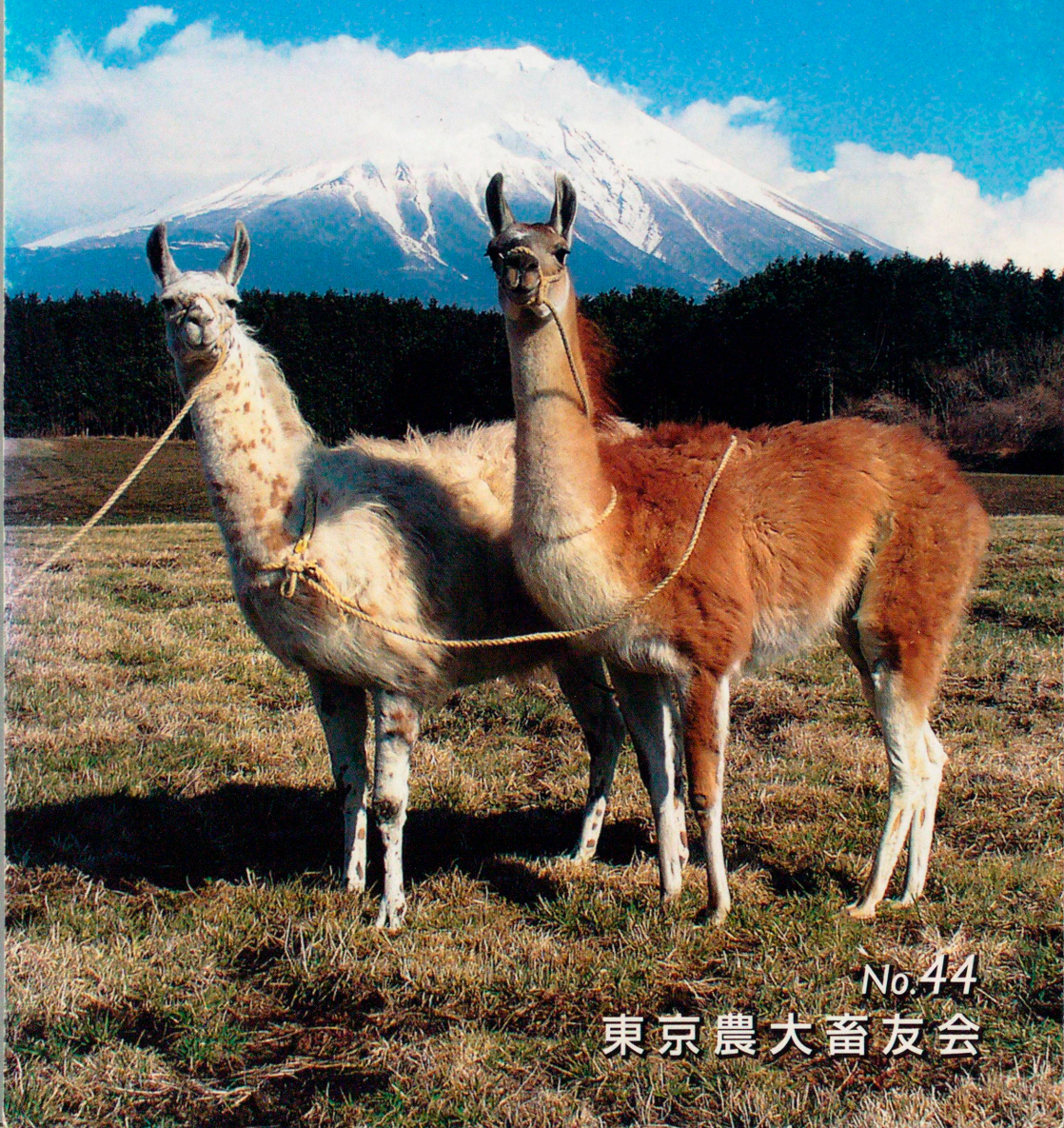
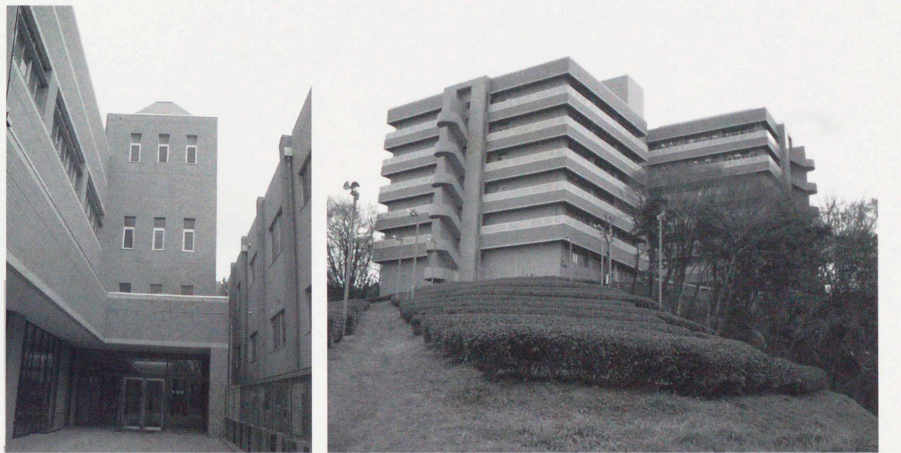


# ふじみの



No.44

東京農大畜友会



## 巻頭言

畜産学科長 渡邊忠男

畜友会の機関誌「ふじみの」第44巻の発刊に当たり、ご挨拶を申し上げます。

本誌の発刊は、現在はその年の卒業時に卒業生に配布するとともに次年度の入学生に配布できるように考慮して、3月に発刊するようにしております。

まずは、この3月21日に畜産学科での勉学を終えられて無事卒業される平成19年度の卒業生の皆さんに心よりお祝いを申し上げます。皆さんは是までいろいろな面で支えて頂いた先生方、事務職員の方々、先輩や友人等の多くの人たちに対する感謝の気持ちを忘れずに、新しい環境の中で、農大の畜産学科においては是までの間に身につけたそれぞれの力を大いに活用して頑張ってください。

在校生の皆さんは、是まで厚木キャンパス（畜産学科）で過ごしてきた時間をそれぞれ振り返り、自分の将来設計がより良いものになるように多くの物事を追究することに心がけて各自が卒業するときに、畜産学科に在籍して良かったと思えるように頑張ってください。

そして4月より東京農業大学農学部畜産学科の新たなメンバーとして入学される新入生の諸君には心よ

りお祝いを申し上げるとともに歓迎致します。皆さんは大学生としての自覚を持って畜産学科の一員として、勉学はもとより、課外活動など色々な面で積極的に取り組むと共に多くの友達を作ること考えて下さい。そして将来「農大の畜産学科に入学して本当に良かった」と思えるような有意義な学生生活が過ごせるように頑張ってください。

おわりに、本誌発刊に当たり、快くご寄稿頂きました方々並びに編集に携わった畜友会の役員諸氏や関係各位に心より感謝申し上げます。

平成20年1月15日

## ふじみの発刊にあたり

畜友会委員長 野口 桂三

菜の花の香り漂い、桜の芽もほころぶ今日この頃、今年も「ふじみの」第四十四号を発行することとなりました。

さて、本誌は畜産学科の先生方、学生たちの原稿を記載するとともに昨年一年間の事業報告を記載しています。昨年から厚木キャンパスも学科数が増え、活気に満ち溢れてきたように思います。今後もさらなる進化に期待する次第ですが、その中で学生一人一人が自ら感じた「夢」や「希望」、また「努力」や「不安」などの文章が載せられています。ぜひ、隅々まで御覧いただけたら幸いです。

ふじみの

目次

巻頭言

渡邊 忠男

ふじみの発刊にあたり

野口 桂三

同窓会だより

同窓会会長あいさつ

渡邊 誠喜

畜産振興会

東京農業大学畜産振興会 便り

渡邊 誠喜

研究室だより

- 家畜繁殖学研究室
- 家畜飼養学研究室
- 畜産物利用学研究室
- 家畜育種学研究室
- 家畜生理学研究室
- 家畜衛生学研究室
- 野生動物学研究室
- 畜産マネジメント研究室

退職にあたり

古川先生との思い出  
松岡先生との思い出  
渡邊先生との思い出

畜産物利用学研究室一同  
畜産物利用学研究室一同  
畜産物利用学研究室一同

ふじみの寄稿原稿

卒論発表会に参加して  
古巣に戻って感じたこと  
駆け出しの私が今思うこと

岩田 尚孝  
鈴木 敏郎  
黒澤 亮

集う学友

4年間の思い出  
この一年  
夢をあきらめないで  
ラクロスと統一と勉強とバイトと

4年 西川 淳子  
3年 高柳 俊昭  
2年 佐藤 智美  
1年 佐藤 晴香

畜友会だより

平成十九年度畜友会事業報告  
平成十八年度畜友会決算報告  
特別会計収支報告  
平成十九年度畜友会予算  
特別会計予算  
平成十九年度畜友会役員

第八回厚木キャンパス収穫祭・  
第一一六回体育祭事業報告及び結果報告  
東京農業大学農学部畜産学科「畜友会」会則

第八回厚木キャンパス収穫祭・  
第一一六回体育祭各部門委員長より

みんなの笑顔

統一本部委員長 3年 野口 桂三

トッキーズ

特別企画委員長 3年 峯野 直也

宣伝隊！いえい！

宣伝隊長 2年 芦澤友喜乃

神興っていいね!!!

神興隊長 3年 岡 泰平

全ての経験がためになる

体育祭委員長 3年 柳原 美和

豚と亥と城と・・・

櫓装飾委員長 3年 矢野 抄子

☆2007年畜統アートのモットー☆

装飾委員長 3年 宮本 明歩

家畜苑一家

家畜苑委員長 3年 石川 怜

編集後記

3年 久保田朋美



同窓会 会長挨拶

畜産学科同窓会  
会長 渡邊 誠喜

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとう御座います。皆さんは四年間、この農大厚木キャンパスにて勉学・実験実習に、クラブ活動にそれぞれ精励され、多くの友人を得て、人格豊かな立派な畜産技術者として本日、目出度く農学士の学位を取得されました。同窓会を代表して衷心よりお慶び申し上げます。この晴れの日を心待ちされておられたご父母の皆様にも心から祝意を表したいと思いません。

さて、昨年来の原油価格高騰と地球温暖化阻止による玉蜀黍(とうもろこし)や小麦・コーリヤンなどバイオエタノール生産原料への振り替えなどによる家畜飼料価格の値上げ・偽装表示による畜産物の信用失墜、そして、

BSEを始め鳥インフルエンザの問題など畜産業界を取り巻く環境は大変厳しいものがあります。このような時、皆さんは畜産社会へ参画されるわけであり、このような厳しい状況のときこそ農大畜産学科で習得された実力が発揮できるものであります。新しく卒業された皆さんの活躍を大いに期待するものであります。農大畜産学科は昭和二十四年に新制大学令により誕生し、来年度を以って丁度六十周年になります。この間の卒業生は七、七、七五名で、本日の卒業生は勿論、即同窓会員の一人となりますので、皆さんを加えると八、〇〇〇名になります。これまでの卒業生は国の内外においても畜産業並びに関連産業の中核となって華々しく活躍されておられます。

本同窓会は昭和六十三年に畜産学科四十周年を記念して、会員相互の親睦と情報交換の場を提供することを第一義とし、併せて畜産学科学生への援助を目的として設立されたものであります。設立趣旨に基いて、発足以来、講演会の開催、会報や会員名簿・追補版の発行など、そして、優秀卒業論文の表彰・学科畜友会への援助など行つてまいりました。新しく会員に加わられた卒業生の皆様にはこの東京農業大学畜産学科で勉学されたこと、そして社会で多くの同窓が活躍していることを誇りとし、実社会に貢献されたく希望致します。

新たに本学科へ入学された学生諸君へ。皆さんは多くの大学農学部がある中、この伝統ある東京農業大学畜産学科を選択され見事、入学試験に合格・入学されたこと

心からお喜び申し上げます。大学農学部の中にあつて畜産学科という名称は希有となり、殆どの畜産学科は名称を変更されました。農学はもとより農業、林業、水産業、畜産業などに係る科学にとどまらず、環境、栄養、飢餓、化石燃料の枯渇などの問題解決にも係る分野であり、これらの難問を解決するための、あらゆる生物の可能性・特性を生かした「いのちの科学」、すなわち、農学は生命の根源を科学する学問分野であります。或るジャンナリストは「現代農学は農業、林業以外に化学、資源、生命科学、医学などに裾野を広げ、今後の可能性は極めて大きい、」と訴えています。食糧生産に係る一次産業の科学としての伝統を大切に護りながら開発・進展させるべきであります。畜産学を基盤として生命科学や環境科学などのフロンティア部分をも開拓すべきです。

農大生の一員となられた以上、今後、永い伝統の中で培われてきた農大精神を身につけ、文武両道を旨として勉学とクラブ活動に精励され、生涯の友と成る良き友人と良き恩師を見つけ楽しい学園生活をかち得てもらいたいものです。そして、創意・工夫と自省を念頭において、常に思慮・分別を弁え、何か自分しか出来ない事柄はないか、を模索し、ある事柄に出会った場合、その問題解決に対して熟慮を重ね、自ずら武装する理論を構築して、如何なる論客に対しても論戦を挑む自信を身に付けるような習慣・習性を作り出すよう心がけてください。創造するということは無から有を生み出すことであります。

物質論的に言うと、無から有は決して有りえないものがあります。しかし、システムとか理論では零(0)を0とせず、0を1、2・・・あるいは0.1、0.2・・・0.01、0.001にすることは可能であります。要は無から有へ一歩踏み出すことが極めて重要で、それがためには一歩踏み出す勇気を持つこと。手を拱(コマネ)いては何も出来上がりません。四年後には農大畜産学科に在学していた、という証を自ら作るよう心がけてください。ご健闘を祈ります。



東京農業大学畜産振興会 便り

東京農業大学畜産振興会

会長 渡邊 誠喜

東京農業大学畜産振興会が発足して、早十六年が経ち本誌に便りを執筆する時期となりました。そこで「ふじみの」発行にあたり、本会の発足の経緯やこれまでに実施した事業について紹介させていただきます。

本会は東京農業大学農学部畜産学科及び大学院農学研究科畜産学専攻に所属する学生の教育・研究の向上に資するために、平成三年三月二十三日に学校法人東京農業大学の認可をえて設立されました。会の運営に遺漏なきよう内外から本会の役員として理事、監事が選任され、理事会で必要事項が審議決定され、運営にあたっています。一方、役員以外の評議員によって評議員会を組織し、理事会での審議・決定内容について承認を得ることとなっております。

で10号を数えるまでになりました。

本会設立の契機は振興会会誌創刊号に紹介されているように平成二年十二月一日、不慮の交通事故により残念にも尊い一命をなくされた江渡宗徳君（当時畜産学科二年在学中）のご両親から寄付を賜った原資を基金として設立されましたが、その後、逐次拡大してきた事業を遂行するため

- 一 東京農業大学畜産学科同窓会からの寄付金
- 二 賛助会員会費
- 三 一般寄付金
- 四 その他の収入

などを資産に加え賄われております。より一層の充実した事業展開のためには更なる原資が必要です。

卒業生には本会の趣旨をご理解いただき、後輩学生の育成のため是非ご支援を賜りたくお願いいたします。

在学生諸君には本会の目的に叶う事象が生じた場合には本会を活用され、充実した学生生活を送られるよう祈念いたし、振興会便りいたします。

具体的な事業内容としては、畜産振興会奨学生としての採用が毎年二〜四年次生の各学年から一名ずつ計三名、姉妹校留学生並びに渡米農業実習生への交通費の一部支給、優秀卒業論文賞を毎年一名、さらに関連学会誌に学術論文を掲載・発表した学生、または学会で口頭発表した学生に対する表彰を実施しております。近年、学生による論文発表や学会での口頭発表は年々増加し、会計担当理事も嬉しい悲鳴を上げるほどになり、益々本会の意義が高まっております。また、社会の経済不況により納入学費の調達が難しい学生も増えており、これらの学生に授業料などの一時貸与も行っております。

平成九年四月にここ厚木キャンパスが開学し、畜産学科が移転しましたが、本年三月には厚木キャンパス育ちの第七期の学科学学生ならびに第五期の大学院生（博士前期課程）が卒業いたします。移転から二年間は、教員が世田谷キャンパスにおり、厚木キャンパスは学生のみと云う状態でした。そこで本会では、学生への教材提供の意味から平成九年には乳用子牛雌一頭、同十年にはリヤマ雌一頭、雄一頭、そして同十一年には黒毛和種子牛一頭を寄贈いたしました。これらの家畜は目下、本学富士畜産農場に繋養されており、黒毛和牛は優秀な二世も誕生するなど、それぞれ実習・実験の材料として活用され、さらに厚木キャンパス収穫祭の家畜苑に参加し、学生はもとより周辺住民にも親しまれております。

また、これら諸事業の成果を取り纏めたものを平成十年より毎年振興会会誌として発行しており、こちらも本年度

研究室だより

家畜繁殖学研究室

私たちが家畜繁殖学研究室は、門司恭典教授をはじめ、桑山岳人教授、佐藤光夫准教授、岩田尚孝講師のご指導のもと、大学院生6名、4年生33名、3年生29名で構成され、日々の研究に取り組んでいます。  
当研究室では、家畜・家禽などの繁殖生理について研究しています。  
具体的には、

- ・ 家畜の体外受精に関する研究
  - ・ 家禽における繁殖行動中のホルモンに関する研究
  - ・ 精子の凍結保存に関する研究
- などのテーマを定め、研究を進めています。最終目標は人間社会に対する有用価値を考慮に入れた家畜生産の技術として確立することです。日常の活動内容は、3年生は繁殖学の基本的な知識、実験方法や技術を身に付けるとともに、シバヤギ・ミニチュアブタ・家禽の日常の飼育管理を行い、大学院生や4年生の研究・実験の補助をしています。

年間の主な行事は、新入生歓迎会、研究室内スポーツ大会、年2回の納会、収穫祭への参加、研修旅行、卒業論文発表会、卒業生送別会などがあります。  
室員同士とても仲が良く、活気に満ち溢れています。

先生方や大学院生ともに会話が多く、各々が自分自身の目標に向かって努力を重ねています。楽しい行事と研究を両立し、充実した研究生生活を送っています。

平成十九年度卒業論文題目

氏名	論文題目	指導員
石川めぐみ	成熟培地のタンパク質がブタ卵子の体外成熟に及ぼす影響	桑山
石黒あつみ	岐阜地鶏の繁殖サイクルに伴う甲状腺および卵巣機能の変化 (関東畜産学会発表)	門司
稲辺 拓美	黒毛和種における分娩前後のボディコンデーションスコアが発情回帰に及ぼす影響	佐藤
岩田 幸乃	ブタの分娩状況と繁殖成績との関係	門司
浦川 真明	ブタの人工授精による精液性状と繁殖成績との関係	門司
江川 哲平	ブタ卵胞液および卵子の存在が卵丘細胞に及ぼす影響	岩田
海老原希子	ミニチュアブタの妊娠初期における血漿および糞中エストロンサルフェート濃度の相関関係	桑山
小松文太郎	凍結用保存液へのゴマ油の添加がシバヤギ凍結精液に及ぼす影響	岩田
齋藤 孝太	成熟培地に添加するブタ卵胞液の濃度が卵子の体外成熟に及ぼす影響 (日本繁殖生物学会発表)	岩田
齋藤 直子	月齢差がウシ体外受精卵の染色体異常に及ぼす影響	岩田
柴田 早苗	シバヤギの妊娠後期および幼畜時の栄養状態が原始卵胞数に及ぼす影響	門司
鈴木 斐子	大卵胞液存在下で発育したブタ前卵胞卵胞の体外発育について (日本繁殖生物学会発表)	岩田
中村 光子	卵巣組織標本による早期卵巣機能不全牛の卵胞発育動態の観察 (日本繁殖生物学会発表)	岩田
西川 淳子	ウシにおける透明帯・精子培養時間が接着精子の性比に及ぼす影響	岩田
林 沙智子	卵巣への熱ショックが卵子の質や成熟能力に及ぼす影響	岩田
久永 望	夏季におけるブタ精液性状と精漿成分について	門司

大関 美樹	脱出期胚盤胞および伸長胚期における子宮液の解析	岩田
大塚 英之	凍結保存液へのイクラ由来脂質の添加がシバヤギ精子性状に及ぼす影響	岩田
長壁 治弘	乳牛の分娩前後におけるBUN値の変動が回帰発情に及ぼす影響	門司
小見 博美	黒毛和種雄牛の精液性状と凍結保存について	門司
神蔵 美穂	黒毛和種雄牛の成長状態と初期精液性状について	門司
金子 佳恵	ニワトリ凍結精液を用いた人工授精の実用化について	門司
菅家 友代	月齢差がウシ卵胞卵胞の体外発育能力に及ぼす影響 (日本繁殖生物学会発表)	岩田
北見 絵梨	ブタにおける射出および凍結精液の精子性状の違い	門司
黒岩 舞	成熟培地のタンパク質がウシ卵子の体外成熟に及ぼす影響	岩田
小磯慧里子	雌ニホンウズラのストレス反応に関する研究	門司

福山 裕史 卵巣への熱ショックがブタ卵子の体外発育能力に及ぼす影響 (関東畜産学会発表) 桑山  
 星 由依 ミニチュアブタにおける過排卵処理による黄体数と発情時間の長さについて 門司

前田 沙織 ホロホロチョウ卵黄を用いたブタ精液の凍結保存の有効性について 岩田

増田 恵 卵巣組織標本による肝臓疾患牛の卵胞発育動態の観察 (日本繁殖生物学会発表) 桑山

水野 宏亮 魚類(イクラ)由来脂質がブタの凍結精液に及ぼす影響 門司

山本 太陽 月齢差がウシ体外受精卵の発生速度に及ぼす影響 岩田

佐藤さち子 ミニチュアブタの妊娠初期における血漿および糞中エストロロンサルフェート濃度門司による産子数の予測 桑山

栗田 敦史 ウシの月齢が卵巣中の卵状および前胞状卵胞数に及ぼす影響 (日本繁殖生物学会、関東畜産学会発表)

家畜飼養学研究室

本研究室は牛・豚・鶏が健康に生活しつつ、さらに各家畜・家禽から乳・肉・卵などの動物性生産物を効率よく作り出していくために、どのような飼料(飼料学)を、どれくらい(動物栄養学)、どうやって与えるか(家畜管理学)を、常に追求しています。さらに飼料の最終形態である糞尿が環境に及ぼす影響(畜産環境保全論)についても研究を行っています。

研究は祐森誠司教授、池田周平教授、黒澤亮助教の指導のもと進めており、成果は日本畜産学会、日本養豚学会、日本家畜管理学会、日本畜産環境学会、日本ペット栄養学会等の学会大会に毎年発表されています。

研究室の活動は、春の新室員歓迎会と富士農場での専攻実習に始まり、飼料成分分析実験、夏の家畜管理実習(学外)、秋の収穫祭への参加(模擬店)、牛・豚・鶏の串焼き、文化学術展、二〇〇七年度、豚とエサの生きる道)、冬の畜産関連諸施設(日本配合飼料株式会社)の見学を兼ねた研修旅行、卒業論文発表会、卒業生さよならパーティー、年二回の大掃除に納会と盛り沢山です。

この様な活動を通して室員の意思の疎通を図るとともに団結を深めています。先生方の指導は時に厳しいこともありますが、学生の相談には親密に応えてくださり、厳しさの中にも優しさを感じます。室員は皆仲良く、研究室での時間を楽しく過ごしています。

今 義拓 単糖類がウシ精子と卵管上皮細胞の接着に及ぼす影響 (日本畜産学会、日本胚移植研究会、Reproduction in Domestic Animals、International embryo transfer society発表)

塩野 紘 X・Y染色体を有したウシ、ブタ精子の透明帯への接着特性 (日本畜産学会、日本胚移植研究会発表)

平成十九年度卒業論文題目

氏名 論文題目 指導教員

伊東実希 盲腸切除ラットへの難消化性繊維給与がCP、粗繊維、熱量の消化率に及ぼす影響 黒澤

今井絵美子 LPS添加飼料の給与がプロイラーの免疫能に及ぼす影響 池田

今津 久美 乾草に噴霧するハーブ香料の濃度が乳牛の嗜好に及ぼす影響 祐森

岩男 厚子 L・カルニチンの飼料添加が食糞行動阻止ラットの成長に及ぼす影響 黒澤

生方可那子 AIA法による盲腸摘出ラットの消化試験の検討 池田

梅原佑美子 成兎の飼料中CP量がDCPならびにTDNに及ぼす影響 黒澤

大柿 仁 茶屑利用飼料の給与が金華豚の肉質に及ぼす影響 池田

奥村 恭兵 L・カルニチン添加飼料の給与が暑熱環境下のホルスタイン種牝牛の精液性状に及ぼす影響 祐森



小田中由貴	乾草に噴霧するハーブ香料の違いが乳牛の嗜好に及ぼす影響	佐藤	濱砂	和久	L・カルニチン添加飼料の給与が黒毛和種子牛の成長に及ぼす影響	佐藤
河合 大典	LPS添加飼料の給与が肉豚の成長と枝肉成績に及ぼす影響	池田	藤田	泰裕	成兔の硬糞と軟糞のAIA分布	池田
木村 豪	馬房で使用した敷ワラの水洗効果実証	池田	渡辺	瑞穂	金華豚における茶屑利用飼料の消化率について	池田
小堀 浩太	島根県下で有害駆除されたイノシシの脂肪性状とその食肉市場の調査	池田	山口	祥子	LPS添加飼料の給与が肉豚の免疫能に及ぼす影響	池田
渋川 道孝	茶屑利用飼料の給与が金華豚の成長に及ぼす影響	池田	酒入	貴	CP量の異なる飼料を摂取したウサギの尿中窒素量	池田
曾田由布子	成兔の飼料中Lys、Val比による血漿遊離アミノ酸量の動態	池田	高石	浩輝	AIAを指標としたウサギの消化試験期間の検討	池田
高橋 里枝	LPS添加飼料の給与がプロイラーの成長に及ぼす影響	池田	田中	幸介	初乳ヨーグルト調整条件の違いが発酵状態に及ぼす影響	池田
新田 昌輝	成兔におけるコバルトとビタミンB12の出納	池田	原	広平	ハーブ香料の害虫忌避効果	池田
佐藤		池田	佐藤			池田

畜産物利用学研究室

本研究室は室長の松岡昭善教授をはじめ、渡邊乾二嘱託教授、古川徳教授、鈴木敏郎教授のご指導のもと、大学院生2名、大学4年次生34名、3年次生30名で構成される室員が、それぞれ活発に日々の研究活動などに取り組んでいます。

具体的には、乳・肉・卵中に含まれる各成分の物理・化学的特質ならびに栄養・生理学的機能特性を品種・個体・分子レベルで追究したり、その研究成果を食品成分の機能性・保存性の改良、超高压処理を用いての研究をしたり、製品製造工程の改良や新しい加工法の開発などに応用するための研究を行なったりしています。

年間の主な活動としては、週一回行われるゼミナールの他、夏休みを利用して行う世田谷キャンパスでの乳酸飲料製造実習、ハム・ソーセージの製造と収穫祭での販売、卒業論文発表会、新入生歓迎会、前・後期納会、研修旅行、卒業生謝恩会などがあります。

平成十九年度卒業論文題目

池田 明奈	論文題目	指導
乳タンパク加水分解物の諸性質に関する研究		古川

石井菜穂子	発色剤無添加発酵ドライソーセージの赤色ミオグロビン誘導体形成に関する研究	松岡
稲葉千査子	馬肉を添加した発酵ドライソーセージの物理化学的性質	松岡
井口 綾子	超高压処理を用いたハイブリッドソーセージの開発に関する研究	鈴木
岩田 珠栄	アレルギーマウスのサイトカイン産生に及ぼす乳酸菌摂取の影響	古川
奥田ゆうに	チーズ速熟法の検討	古川
鹿股 大樹	乳酸菌発酵エキスの摂取がマウス肥満細胞のアデイポカイン分泌に及ぼす影響	古川
河崎 直子	乳酸発酵卵白食品の品質向上に関する研究	渡邊
斎藤 貴子	乳酸菌摂取によるコラーゲン誘発関節炎の抑制効果	古川
酒井ひとみ	畜肉を原料とした塩辛製造の試み	松岡
澤田 拓也	豆乳チーズの苦味抑制に及ぼす白カビの効果	古川
志村 竜生	乳酸発酵卵白食品の諸性質に関する研究	渡邊

相馬 雄介 回腸部αケルコシターゼ活性に及ぼす乳  
酸菌成分について 古川

高橋 奈緒 超高压処理を用いた減塩ソーセージの開  
発に関する研究 鈴木

多賀 将人 食品機能に關与する卵白由来のペプチド  
に關する研究 渡邊

津隈久美子 菌垢細菌増殖抑制効果を持つ乳酸菌につ  
いて 古川

中村 一成 豆乳チーズの速熟法の検討 古川

那智大二郎 アクトミオシンと大豆タンパク質混合系  
における超高压処理後のゲル形成に關する  
研究 鈴木

西橋 宣孝 アクトミオシンと乳清タンパク質混合系  
における超高压処理後のゲル形成に關する  
研究 鈴木

蜂須賀一郎 ソーセージの発色に及ぼす卵白酵素分解  
物(DP<sub>1</sub>)の促進効果 松岡

服部 怜児 卵白を用いたチーズ様食品の製造に關す  
る研究 渡邊

藤井 健輔 超高压処理を用いた生ハムの製造に關す  
る研究 鈴木

前田 利道 アレルギーマウスの抗体産生に及ぼす乳  
酸菌摂取の影響 古川

水谷 奨介 受動的回避学習に対する発酵乳由来ペ  
プチドの効果 古川

宮崎 俊 アイスクリームの溶解性に及ぼす糖類の  
影響 古川

村田 有衣 培養肥満細胞のC/EBPαおよび遊離脂肪  
酸分泌に及ぼす乳酸発酵エキスの効果 古川

森 香絵 アクトミオシンと卵タンパク質混合系に  
おける超高压処理後のゲル形成に關する  
研究 鈴木

山川忠一郎 木灰中で熟成した生ハムの理化学的及び  
細菌学的性質 松岡

吉川 みを 苦味ペプチドの受動的回避学習に対する  
影響 古川

割野孝太郎 レバーを素材とした発酵肉製品の開発 松岡

富山 晋 チーズ速熟化に伴う香氣成分の変化 古川

藤田 美也 卵白・牛乳混合系の乳酸発酵食品の製造  
に關する研 渡邊

大吉 秀人 乾燥肉の赤色ミオグロビン誘導体形成に  
關する研究 松岡

家畜育種学研究室

家畜育種学研究室では、家畜改良の基礎となる遺伝学、  
細胞遺伝学、育種学、分子生物学的見地から広範囲にわ  
たる研究活動が実施されています。

当研究室では、花田博文教授、野村こう講師、高橋幸  
水助教の指導の下、大学院生7名、4年生31名、3年生  
31名によって構成され、室員各自の自覚と相互の協力を  
よりそれぞれの目標に向かって日々研究が続けられてい  
ます。主な研究テーマとしては家畜(ウシ・ヤギ・スイ  
ギユウ)、家禽(ニワトリ)を供試動物として、細胞遺  
伝学的研究、血液蛋白型支配遺伝子情報・マイクロサテ  
ライトマーカー・ミトコンドリアDNA遺伝子情報・Y  
染色体遺伝子情報による系統遺伝学的研究、品種分化に  
關する研究などが行われています。

研究室では一年を通して新入室員歓迎会、定期総会、  
収穫際の参加、研修旅行、特別講演会、卒業論文発表  
会などが行われ、室員は実験動物の管理、毎週行われて  
いるゼミ、定例室員会、それぞれのテーマに即した研究  
などを日々行っています。さらに研究活動は学内にとど  
まらず、先生方や院生により学会発表などが精力的に行  
われています。

平成十九年度卒業論文題目

氏名	論文題目	指導 教員
飯田 将行	ウシにおける矮小個体の特性調査とその 発生原因の解明	花田
五十嵐 淳	DNA多型情報に基づくエチオピア在来 牛の系統遺伝学的研究	花田
池田 雄一	マイクロサテライトDNA多型情報に基 づくニワトリの系統遺伝学的研究	花田
岡本 幸大	マイクロサテライトDNA多型情報に基 づくニワトリの系統遺伝学的研究	花田
小倉 一哲	ヤギの運動能力とミトコンドリアDNA 遺伝子多型との関連性	花田
小池 銀太	DNA多型情報に基づくエチオピア在来 牛の系統遺伝学的研究	花田
高野 幸彦	ミトコンドリアDNA情報に基づくニワ トリの系統遺伝学的研究	花田
小林 秀行	ヤギミトコンドリアDNAタンパク質コ ド領域の解析	花田
小林 正博	小笠原再野生ヤギの系統遺伝学的研究	花田
古村 織生	エチオピア在来ヤギの系統遺伝学的研究	花田

高塩	知樹	カシミヤ毛の形質に関する遺伝学的研究	野村
高野	大智	マイクロサテライトDNA多型情報に基づくニワトリの系統遺伝学的研究	野村
高羽	智子	体細胞クローン牛及びその後代の細胞遺伝学的正常性に関する基礎的研究	野村
宅見	愛子	体細胞クローン牛及びその後代の細胞遺伝学的正常性に関する基礎的研究	野村
三浦	豪士	体細胞クローン牛及びその後代の細胞遺伝学的正常性に関する基礎的研究	野村
村谷	絃子	体細胞クローン牛及びその後代の細胞遺伝学的正常性に関する基礎的研究	野村
高橋	圭	ヤギミトコンドリアDNAタンパク質コード領域の解析	野村
高橋	優子	ヤギの毛色関連遺伝子に関する研究	野村
田中	賢二	スイギュウ血清アルブミン遺伝子の解析	野村
鳥居	もえ	ヤギメラトニン1A受容体遺伝子の多型解析	野村
西岡	莊平	ミトコンドリアDNA D-loop領域情報に基づくスイギュウの系統遺伝学的研究	野村

家畜生理学研究室

家畜生理学研究室は半澤恵教授をはじめ、吉田豊講師、原ひろみ講師、松林尚志博士研究員のご指導のもと、大学院生9名、学部4年次生37名、学部3年次生24名で構成されています。

本研究室では、家畜・家禽に発現する生理的な特徴やその生理機構の遺伝的支配に関する研究をしており、対象動物によって①ウマに関する研究、②ニホンウズラ・ニワトリに関する研究、③ウシに関する研究、④その他の動物に関する研究に大きく分けられます。

①においては、コンディションの変化による血液性状の変動、赤血球膜タンパク質の遺伝子に関する研究などを行っています。②においては、抗原に対する抗体産生能、アポトシス・モノクローナル抗体といった免疫の基礎となる研究、主要組織適合遺伝子複合体(MHC)の分子遺伝学的・免疫学的解析、TLR遺伝子の解析、HSP70、90遺伝子の解析、腸内細菌と血液性状の関連解析を行っています。③においては、ビタミンA代謝における諸々の現象に関する研究、不死化細胞の染色体解析などを行っています。④においては、アライグマ及び野生ウシバンテンのDNA多型に関する研究が精力的に行われています。

本研究室における日々の活動を紹介しますと、3年次には生理学に関する基礎的な実験の技術を身につけるために講義・ゼミ・実験実習を行うとともに、実験動物の飼育管理、院生・学部4年生の卒業論文の補助として協力

林	はる花	ミトコンドリアDNA情報に基づくニワトリの系統遺伝学的研究	野村
平野	文平	マイクロサテライトマーカーに基づくウシの系統遺伝学的研究	野村
福山	洋一郎	頭蓋骨画像情報解析によるニワトリの品種分化に関する研究 —Spherical Attribute Image法による解析—	野村
堀越	竜一郎	ミトコンドリアDNA情報に基づくニワトリの系統遺伝学的研究	野村
増田	翔	頭蓋骨画像情報解析によるニワトリの品種分化に関する研究 —Free-From Deformation法による解析—	野村
松橋	知里	ミトコンドリアDNA情報に基づくニワトリの系統遺伝学的研究	野村
山内	恭子	ミトコンドリアDNA情報に基づくニワトリの系統遺伝学的研究	野村
山田	英明	スイギュウ血清アルブミン遺伝子の解析	野村
杉山	裕子	ミトコンドリアDNA D-loop領域情報に基づくスイギュウの系統遺伝学的研究	野村

しています。4年次には前述の研究のほか各個人が興味を持ったテーマを先生方との協議により決定し、卒業論文研究を行っています。院生は、自分の学位論文のテーマに対して日夜研究に精励し、その結果を学会などに発表しています。

年間の主な行事として、新入生歓迎会、収穫祭文化芸術展・模擬店、研究旅行、卒業論文発表会、卒業生送別会、年2回の納会、実験動物・家畜舎大掃除、週1回のゼミナール等があります。

なお、平成19年度の卒業論文題目は以下の通りです。

平成十九年度卒業論文題目

氏名	論文題目	指導教員
小林 絵美	ニホンウズラNK-lysin遺伝子の解析	半澤原
酒井 正文	ニホンウズラの各系統および各週齢における育雛状況	半澤原
藤川 裕美	ニホンウズラにおけるCathepsinB遺伝子の解析	半澤原
村松 剛	ニホンウズラにおけるTRIM遺伝子群の半澤構造ならびに多型解析	半澤原

浅見 理沙 抗ウズラTLR2抗体作製および各臓器の免疫組織染色による発現解析 半澤 原

池田 正規 ニホンウズラのMhc(CoII)領域におけるDNA多型マーカーを用いた家系解析 半澤

石崎 暢 ニホンウズラCD1遺伝子座の多型ならびに周辺領域の構造解析 半澤

伊藤 愛香 ニホンウズラHSP90 $\alpha$  cDNA陽性クローニングの獲得 半澤

梅澤 智子 ニホンウズラHSE遺伝子群の構造解析 半澤

大木本千春 ニホンウズラにおけるHSP90遺伝子群熱ショック応答解析 半澤

小澤 甲 ホルスタイン種と黒毛和種母子牛における分娩(出生)後の血中ビタミンA量とIgG量の推移に関する研究 吉田

亀治中隆光 マッサージがウマに与える影響(リラクゼーション効果)について 半澤 吉田

木村 明菜 幼雛ニホンウズラ腸管上皮細胞における自然免疫関連分子のmRNA発現解析 半澤 原

木村 剛久 TLR1遺伝子の解析 半澤 原

國分啓士郎 ウマ赤血球系細胞に発現するSLC7familyのプロモーター領域の解析 半澤

相良 舞 ニホンウズラCD5のcDNA解析からの特異抗体作製 半澤 原

静谷 亮治 レチニールアセテートと $\beta$ -ラクトグロブリンの投与がホルスタイン種牛の血中IgG濃度に与える影響 半澤 吉田

芝塚 洸太 ニホンウズラの各種臓器におけるDEFB mRNA転写の比較解析 半澤 原

進 紘孝 ニホンウズラにおけるC/DEFB12の抗体作製および免疫学的発現解析 半澤 原

杉岡 真実 ニホンウズラにおけるTLR4遺伝子の解析 半澤 原

須藤 真史 メンヨウ白血球に発現するグルタチオン関連酵素の塩基配列の解析 半澤

瀬戸 裕一 競技馬の運動内容および状態別における赤血球浸透圧脆弱性と血液性状の年間変動 半澤

高橋 生充  $\beta$ -ラクトグロブリンとレチニールアセテートの投与量の差異によるホルスタイン種牛の血中ビタミンA量と甲状腺ホルモン量の関係 半澤 吉田

中澤 香織 ニホンウズラHSP70遺伝子(C/HSPA2)の多型解析 半澤

橋本 健一 ニホンウズラのIgAmRNA転写量および抗IgA抗体作製 半澤 原

浜田 涉 ニホンウズラにおけるCD40およびCD40LigandのcDNA塩基配列と血漿IgG濃度との関係 半澤

福山 雄介 ウマ赤血球に発現が予測されるK-C1共輸送体遺伝子SLC12A7 $\mu$ シ-の塩基配列解析 半澤

細井 清子 ニホンウズラCD3eおよびCD4の抗体作製および免疫学的解析 半澤 原

細谷 美幸 ニホンウズラにおけるDEFB62およびDEFB12遺伝子座の解析 半澤 原

本間 美実 ニホンウズラHSP90遺伝子の構造解析 半澤

松田慎之介 ニホンウズラにおける補体成分MASP familyのcDNA塩基配列の決定 半澤

渡辺 千鶴 ニホンウズラHSP70遺伝子(C/HSPA2)の熱ショック応答に関するmRNA増加率の個体間比較 半澤

丸山 晃 ニホンウズラにおけるTRIM遺伝子群の構造ならびに多型解析 半澤

矢島 宏紀 大腸菌に対するウズラ血漿の殺菌効果 半澤

山田知歩子 正常血漿IgG値高低群のニホンウズラ幼雛におけるIgSfDNAによる腸内細菌叢の解析 半澤 原

わが家畜衛生学研究室は、室長の渡邊忠男教授をはじめ、井上武教授、村上覚史助教授のご指導のもと、四年生三十二名、三年生三十一名で構成されています。室員は各自で希望する対象動物別に、実験動物班、牛班、豚班、鶏班の四班に分かれ、各家畜・家禽等の疾病とそれに対する予防法および環境衛生などの研究を行っています。

家畜衛生とは「家畜・家禽の生命を脅かす種類の健康阻害因子を除去および予防し、生命の延長をはかり、かつ生産性の向上」というのが元来の目的とされてきましたが、最近では「動物の福祉」という観点から家畜伴侶動物（コンパニオンアニマル）の衛生管理法など家畜や家禽以外の動物もその対象となつてきています。

年間の主な行事として、新入生歓迎会、収穫祭では模擬店で「しし汁」を出店し、文化芸術展にも参加、その他に年二回の納会、研修旅行、月二回の定例会、年末には餅つき、慰霊祭等があり室員の団結を深め、各々が目標意識を持って有意義な研究および研究室活動を行っています。

なお、平成十九年度の卒業論文の題目は次の通りです。

氏名

論文題目

指導員

阿部 泰葉 豚の腸内常在菌の生体内移行に関する研究

石田なおこ 鮎鮪由来細菌の大腸炎に対する影響

内田麻由子 食肉センターにおける食用動物のストレス軽減対策

遠藤美那子 野生動物の寄生虫相について

大島 義広 臓器腐敗の肉眼的および組織学的観察

大塚加奈子 愛玩動物飼養者に対する衛生学的認識調査

小瀬さや佳 ミニブタの血液性状における季節変動

織原 哲彦 飼養馬の内部寄生虫の駆除試験

片桐 尚美 飼育条件の差異が綿羊の血液性状に及ぼす影響

辻 千明 老齢犬の血液性状における季節的変動

中村 碧 哺乳類および鳥類における免疫組織化学的染色時に発生する非特異反応について

長岡 咲子 豚糞の脱臭効果に及ぼす茶葉の影響

新田 雅彦 豚の消化関連臓器（扁桃）から分離された大腸菌の薬剤耐性

橋本 一帆 畜舎における衛生害虫の季節変動と効果的な殺虫方法の研究

長谷川博之 豚の消化関連臓器（肝臓）から分離された大腸菌の薬剤耐性

福田美奈子 ダチョウ農場における糞便内寄生虫についての比較

松尾 雄平 ニホンライチョウに寄生する住血原虫のベクター検索

村岡 直樹 畜舎におけるハープのネズミ忌避効果

脇野 寛之 納豆菌製剤が糞に対する大腸菌接種に及ぼす影響

金子明日香 畜産農家における動物福祉観

神定 彩華 豚の腸内常在菌の生体内移行に関する研究（肝臓と肝門脈における好氣的細菌分離）

北原 典恵 鶏のコクシジウムに対する系統間差異の検討

木村 雄一 柑橘類の投与が犬の健康状態に及ぼす影響

桑原麻衣子 豚の体表にみられる真菌に関する研究

小林 朱里 富士農場の飼養鶏に対するサルモネラ対策について

小山 夏穂 動物園における衛生管理に対する考察

清水 一樹 厩舎における衛生害虫の季節変移

武島 恵 犬に対する市販シャンプー剤使用による被毛付着細菌の季節的変動

筑城 亮 鶏品種間の遺伝的考察

指導員

村上

山本

村上

村上

村上

村上

村上

高崎

村上

村上

村上

村上

山本

村上

山本

村上

村上

村上

山本

金子枝里香 ウサギの内部寄生虫に対する衛生管理の  
検討 村 上 渡 邊

堀江美菜子 豚の腸内常在菌の生体内移行に関する研  
究(腸間膜リンパ節における好氣的細菌  
分離) 村 上 山 本

湯浅 通世 バルク乳検査から見た農場の衛生管理状  
況調査 村 上 渡 邊

野生動物学研究室

本研究室は、天野卓教授・小川博教授・安藤元一准教授の指導のもと、室員がそれぞれの研究活動を行っている。我々は家畜の祖先である野生動物の分類や行動、生態学的な研究、また、環境教育や動物福祉のありかたを考えるため、フィールド調査(サンプルの捕獲や生態行動観察等)、図書・文献検索を行っている。また、研究室で動物を飼育し、繁殖・成長・分子遺伝学的な研究を行っている。研究の対象は、ムササビ・モモンガ・モグラ・ネズミ類などの小型哺乳類・タヌキ・カワウソなどの中型哺乳類・ニホンザル・シカなどの大型哺乳類である。また、近年日本の生態系に影響を及ぼしている、外来種のアライグマやハリネズミなども研究対象としており、他にもニワトリ・ウズラ・ホロホロチョウ・スズメ・カラスといった鳥類の生殖や生態といった幅広い研究を行っている。これらの研究を通して、生物資源として重要な野生動物の種も保存、外来種の防除および特性の解明を目指している。

平成十九年度卒業論文題目

氏名 論文題目 指導  
教員

青島 牧人 TRECK法を応用した腎障害マウスの作製 天  
野 小 川

井口 正樹 アライグマによる在来中型哺乳類への影  
響 天 野 安 藤

植木孝一郎 英国の野生動物関連法律における動物福  
祉の扱い 天 野 安 藤

太田 季絵 センサーカメラとスタンプ式足跡トラッ  
プの調査精度に関する比較研究 天 野 安 藤

奥本 将彦 カワネズミChimarrigale platycephalaに  
おける非捕獲式調査の比較検討 天 野 安 藤

甲斐さやか ニワトリGallus domesticusとホロホロチ  
ヨウNumida meleagrisの雑種に関する研究 天 野 小 川

掛水 聡美 オランウータンPongo pygmaeusにおけ  
る唾液を用いたストレス評価 天 野 小 川

開上地広美 オサハシブトガラスCorvus macrorhyn-  
chos osaiの島嶼集団間の遺伝的分化 天 野 小 川

菅野 孝典 植林地におけるヒメネズミApodemus  
argenteusの行動圏について 天 野 小 川

木村 剛志 ムササビPetaurista leucogenysの分布密  
度における過去30年間の変移 天 野 安 藤

桑原 千尋 東京農業大学厚木キャンパス及びびほう  
さいの丘公園の鳥類生息環境 天 野 小 川

桜木 隆志 静岡県伊東市におけるマンシュウハリネ  
ズミErinaceus amurensisの分布及び食性 天 野 安 藤

佐野 拓也 スタンプ式足跡トラップの精度検証 天 野 安 藤

沢田 遼 側溝を持つ小型哺乳類に対する危険性に  
ついて 天 野 小 川

谷口 絵梨 樹上性げっ歯類を対象とした生息確認法  
の開発 天 野 安 藤

鶴田 翔太 植林地における小型哺乳類の生息環境利  
用について 天 野 小 川

鉄谷 龍之 野生動物による広域獣害防止への影響に  
ついて 天 野 安 藤

中村真菜美 都市に生息する猛禽類の食性解析 天 野 小 川

野中 圭輔 昼夜逆転展示における暗期の補助照明の  
検討 天 野 小 川

橋本 香織 学校教育(小学校、中学校、高等学校)  
における野生動物の扱われ方 天 野 安 藤

濱 達也 動物園に持ち込まれる傷病鳥獣への対応  
について 天 野 小 川

比留川和里 モモンガの糞中性ステロイドホルモン濃度 天野小川

藤永 綾 オオナキミズドリはどう渡り、越冬するか(衛星による位置情報と海洋環境情報による解析) 天野小川

堀 真理子 伊東市及び小田原市におけるマンシュウハリネズミ(Erinaceus amurensis)の生息状況比較 天野安藤

前山 直子 足跡スタンプ法を用いたアライグマProcyon lotorタヌキNyctereutes procyonoidesの競合可能性 天野安藤

松平 恵理 傷病タヌキの放野後の行動および各種鳥獣の野生復帰事例研究 天野安藤

三浦 翔吾 動物園展示における展示意図と来園者の意識について(千葉市動物公園「サル比較舎」と「小型サル展示室」の事例) 天野小川

村木 美穂 気象要素が中小型哺乳類の活動に及ぼす影響 天野安藤

八木 仁美 傷病タヌキにおける異なる環境での定着過程及び傷病鳥獣の野生復帰事例研究 天野安藤

山本佳代子 ニホンカワウソLutra nipponの絶滅過程に関する研究 天野安藤

蓮見 典子 スズメPasser montanusの逃走距離に見る人馴れ現象 天野安藤

山崎 紀子 研究機関における動物福祉への取り組みの現状 天野安藤

中田智歌子 柵を用いた動物侵入防止法の比較検討 天野安藤

畜産マネジメント研究室

畜産マネジメント研究室は新任スタッフの信岡誠治准教授の下で平成十八年度に発足し、平成十九年度から新たに嘱託教授として小栗克之先生を迎え、また、3年次生19名が加わり本格的に研究室活動がスタートしました。生産・流通・消費からのアプローチをテーマとして、畜産(肉牛・酪農・養豚・養鶏)における経営経済問題について、生産から流通・販売・消費などの諸過程と関連付けながら取り組んでいます。

当研究室の使命として、わが国の畜産の将来を担う後継者および就農者を養成することも含まれていますので、パソコンを活用した経営管理ソフトの演習に加え畜産経営のプロを育てるべくできるだけ畜産経営の現場にだけかけ実践的な経営を学んでいます。マネジメント演習では簿記演習、卒論作成に向けた演習などを実施しているほか、研修旅行では福島県の家畜改良センター、栃木県那須塩原市内の酪農家やTMRセンター、さらには茨城県内の大規模酪農経営を訪ね見聞を広めています。また、神奈川県内の酪農家や養豚家の視察、神奈川食肉センターの視察なども行っています。

研究活動としては現場の畜産経営者が抱えている問題を一緒に考え、具体的な解決策を見いだしていくことをモットーとして取り組んでいます。具体的には、現在の飼料価格の高騰に対応するとともに畜産物の安全性と高付加価値化を図るため飼料米の研究に取り組んでいます。

十九年度は厚木農場(柵沢)の水田で飼料米の生産に初めて取り組みましたが単収は一千五十キ(モミ重量)が実現できました。研究室の畜舎では現在、羊二頭、ブロイラーや採卵鶏を飼養していますが、飼料米を自分たちで配合して給与しています。飼料米を給与して育てたブロイラーや卵などの試食も行っています。

## 退職にあたり

### 古川先生との思い出

畜産物利用学研究室一同

毎朝薄めのコーヒーにスプーン一杯のお砂糖。

「さあやるかあ」から先生の一日は始まります。

先生の授業を始めて受けたとき、その声の大きさと迫力に思わず縮こまってしまいました。研究室に入っても、雲の上の人のようでなかなか話せませんでした。

しかし、先生に卒論のご指導をして頂く中で、実験方法や、グラフの表し方が分からないと、「しようがないな」、大学生にもなってこんなも分かんないのかよ」と言いつつも、親身になって全部教えてくれました。

利用研の先生方は仲がよく、お昼を一緒に食べたり、帰宅するのも一緒のときがあります。だからこそ、利用研は穏やかでとつても居心地の良いところなんだと思います。

夕方を過ぎた頃、先生は「あゝ疲れた」と、かりんとうや黒胡麻スティックを食べながら、先生の子どもの頃の話・やんちゃな大学時代の話、時には恋の話もしてくれました。

そして、アイスクリームやカルピス製造の時の汗だくになりながらタンクトップ姿で機械と格闘している先生

は忘れることができません。でも、完成したアイスクリームを「嫌いっ」と言って味見すらしていませんでしたね。先生の作るアイスクリームは、とつてもおいしいんです。特に、機械の中に残った最後のアイスクリームが先生、本当に自由奔放で、できの悪い4年生ですみません。でも、先生がおっしゃっていた「夢を持ち、追い続けること。」この言葉の難しさを私たちはこれから、何度も感じると思います。しかし、私たちはこの春、それぞれの道に夢を持ち新たなスタートを切ります。

最後になりましたが、お体に気を付けてパワフルな先生のご発展を期待しております。

大変お世話になりました。

先生、2年間ありがとうございました。



### 松岡先生との思い出

畜産物利用学研究室一同

私たち松岡肉班は松岡先生には卒論のご指導、加工所での製造等はじめ大変お世話になりました。松岡肉班6人全員の感謝の気持ちを一つにまとめ、感謝の意を表したいと思います。

まず松岡先生の第一印象は、3年生で行った収穫祭の模擬店でのチキン、ハム作りをしている姿がとても印象に残っています。チキン、ハム作りはとても大変で、当番は日替わりですが、先生は毎日加工所に来てくださり、熱心にご指導してくださいました。毎日疲労困憊になりながらも指導してくださる松岡先生は、シャイで寡黙ですが、生徒思いの熱い先生でした。

授業では肉利用の授業を受け持ってくださいました。

それが卒論の研究をするにあたって大いに役立ち、基礎となりました。卒論実験では、3年生の実習以上に先生は熱心にご指導してくださいました。加工所にこれほど馴染むことができたのは、松岡先生の班になったからだと思います。また加工所は非常に寒いのですが、先生は何も言わず2時間、3時間もずっとソーセージが出来るのを見てくださりました。年のせいで鈍感になったとお

っしゃっていましたが、先生の唇が紫色だったのが忘れられません。

松岡肉班で勉強できたことは私たちにとつて大きな財産になりました。先生には本当に感謝しています。卒業しても先生に会いに行きたいと思えます。2年間ご指導ありがとうございました。





## 渡邊先生との思い出

畜産物利用学研究室一同

私達がこの畜産物利用学研究室に入室し、早2年が経ち、もう卒業となりました。渡邊先生とは大学1・2年の頃から生化学や畜産物利用学の講義を受けていたこと、3・4年では渡邊先生の専門分野である卵利用の講義や研究活動、また様々な研究室の行事を通して親交を深めていきました。

長期で海外出張へ出掛けたり、大学へ毎日徒歩で通ったりなど、年齢を感じさせず若さで溢れています。何十年もの間、一途に研究してきた「卵」に関しての知識は非常に豊富で、講義などでは、真面目で真剣に、時折熱くといった印象を受けます。しかし、普段の渡邊先生と接してみると、「優しい、温かい」といった印象をみんなが持っています。研修旅行ではカラオケを唄われたり、卵の話を始めると、子供のように無邪気になるといった一面も持っています。

先生がしてくれる話しは、毎回奥が深く、勉強になる話しばかりです。その中でも印象に残ったスピーチが「失敗する前に考えること」です。失敗しても次があると思いうのではなく、まず考えること、たとえ失敗しても原因

## ふじみの寄稿原稿

### 卒論発表会に参加して

家畜繁殖学研究室講師

岩田 尚孝

学校の勉強はいつたい社会にでてからどのように役に立つのかとよく指摘されますが、卒業論文はとても刺激的で、あとあと役に立つ課題ではないかと思っています。

1月11日トリニティホールにて繁殖学研究室の卒論発表会が行なわれました。研究室に入ってから2年間にわたる研究の成果を発表する場です。パワーポイントを使ったスライド発表ですが、これを聞くそれぞれの学生の能力や成果が非常によくわかります。

卒論研究テーマは、教員からもしくは大学院生を介して勧められてそれぞれ決めます。学生は統計処理などを考慮に入れて、実験計画を作って研究をはじめます。新しい技術を学びながら手を動かし、得られた結果を、教員や先輩と考察して、次の実験計画を作り上げます。これを繰り返しながら、最終的に科学的に間違いないという事実を見つけ出します。次になぜ、どうして、という考察をこれに加えます。研究に慣れてきた大学院生になると、自分で考えて色々な創意工夫を加えられるようになってきます。こういったステップは卒業後直面する仕

を考え、次に臨めと先生は伝えたかったのだと思います。そんな渡邊先生も、私達と一緒に農大を卒業になりました。今まで、長い間でしたがお疲れ様でした。渡邊先生と過ごした2年間は、とても充実したものになりました。これからも、健康に気を付けて、先生らしく頑張ってください。私達も先生の教え子として、前向きに社会で頑張っていこうと思います。短い時間でしたが、ありがとうございました。



事にも似ています。多くの場合、仕事を組織から与えられ、それに対して行動し、その度に報告、連絡をして次の行動を上司と決めます。そして最終的に成果を出すという過程を踏むからです。

卒論研究で一生懸命、手を動かしているのに、深い考察や報告相談を怠ったために、穴だらけの計画のまま進めてしまい、自分の得た結果だけでは、何が本当に良いのか、正しいのかを示せないこともあります。得られた結果の意味を考えて、次の目標を注意深く設定することは、限られた期間に成果を得るためにはとても大事だと思います。一方でたった2年でも、実験するたびに毎回軌道修正し、無駄のない動きを積み重ねて、学会発表どころかそのまま国際誌の論文に出来るような成果を挙げられる学生もいます。また、定期試験のように、直前徹夜の丸暗記と、うまく立ち回ってしのごうとする学生も見受けられます。このような姿勢のまま社会に出て、仕事の締め切り直前の稚拙な仕事に、周りの仲間全部で尻拭いをするようなことをやらかしそうに気が採みます。

一定の結果が得られた学生は、次に発表する練習をします。得られた結果の意味を自分なりに理解するには、情報収集が必要です。我々の分野では、沢山の英語論文を読んでおかないと、考察をまとめ切れません。懸命に勉強した学生は、英語力、考察力そして文章の書き方までも格段に向上しますし、新しい論文や知識にこちらが得ながらもありません。一方で、せっかくの良い結果を得ながら、考察のほうは先輩や教員に任せてしまい、苦

労した割には自分の能力向上にさほどつながらない残念な例もあります。たくさんの情報を得れば、自分の仕事がどのような意味もつか、得た成果がどのように役立ったのかを考へることができません。また実験内容やまとまつた考へを、図や表を使って表現する工夫も必要です。見せ方、話し方、示し方等を練習しないとまことに理解してもらおうことは出来ません。折角のスライドも手元の台詞帳をみて、うつむいたまま、ただただ朗読されると残念に思います。

さらに視野を広げて学会などに参加することもとても貴重な体験です。毎年、多くの学生と一緒にいろいろな学会に出向きます。発表する学生は懸命に練習しますし、そういった彼らが演台に立つ時は私も緊張します。一生懸命作ったライドでうまく説明できたか、自分たちの成果が聴衆にどう受け止められたかがとても気になります。そして学会に参加した学生はいつも他の研究機関や大学の研究を熱心に聞いています。演者が同世代であることも多く、その研究成果や手法に感心したり、自分達の研究の質を測ったりする機会でもあります。質の高い学会に出れば、興味深い発表が多く、これは大変な刺激になります。社会に出た時、同業種の優れた競争相手の製品や技術を見て、刺激を受け、良いところ取り入れるたくましさも習得してほしいと願っています。

日本は技術立国の国です。しかし技術系の人たちが汗をかき、ものを作るといったことが脚光を浴びにくい世になつていっているように思います。テレビドラマでも、人脈、



## 古巣に戻って感じたこと

畜産物利用学研究室教授

鈴木 敏郎

私が畜産学科を卒業したのは昭和50年3月であるから、今からざっと32年前になる。昨年の4月から古巣である畜産学科畜産物利用学研究室の教授として着任したが、畜産学科卒業から現在までの経歴を思いつくまま自己紹介を兼ねて書き留めてみたい。

私が畜産物利用学研究に入室した当時(昭和48年)、畜産物利用研は肉利用研と乳利用研の二つの研究室に分かれていた。肉利用研には鬼原新之丞教授と松岡昭善助手(現教授)、乳利用研には山中良忠助教授(前教授)と古川徳助手(現教授)がおいでになった。私は肉利用研に所属して松岡先生の指導の下、畜肉の脂肪酸組成の卒業論文に取り組んでいた。就職も決まり後は卒業論文に専念しようと思っていた矢先、鬼原先生から大学院に進学してはどうかとの助言を頂き、色々と悩んだ末に大学院

根回し、心遣いみたいな分野で成功する様子が描かれることが多いように見受けられます。しかし勉強と試行錯誤を繰り返して、新しい質の高い製品を作り上げていく人たちがいなければ、豊かな社会を維持することは出来ないと思います。農学部学生には、プロ意識を持って勉強に全身で打ち込んでほしいですし、卒論で自分が勉強した分野では、第一人者の見識を得てほしいと切に願っています。

に進学することにした。当時の畜産物利用研は現在の世田谷キャンパス2号館3階にあり、畜産学科には大学院が設置されていなかったため、大学院の専攻は畜産物利用学と関連の深い農芸化学専攻に籍を置くことになった。大学院受験が決まると、鬼原先生に連れられてちょうど肉利用研の真下にあった農芸化学科農産製造学研究室(現在の生物応用化学科食料資源理化学研究室)に行き、小原哲二郎教授に初めてお目にかかったことを今でも鮮明に覚えている。小原先生は終始にこやかに対応してくださり、「頑張りなさい。」とのお言葉をいただいたが、後になって先生が日本の食品工業界を代表する大先生であることを知り非常に驚いた。鬼原先生の大学院に行かないかとの言葉と、小原研究室での5年間の研究生生活が今の私の研究者としての出発点であり、このお二人の先生との出会いがなければ今の私は存在していないのは確かである。

農芸化学専攻の大学院に入ってまず驚いたことは、その研究レベルの高さであった。学部の学生でさえ院生の私より実験について多くの知識を持っていて、非常に悔しい思いをする毎日であった。そこで畜産学科の卒業生として、私一人のために畜産学科全体を低く見られてはならないと思い、とにかく修士課程の1年間はがむしゃらに勉強と研究をしたことを今でも思い出す。修士論文は、ハマチの消化酵素について研究を行ったが、博士課程では、どうしても肉関係の研究がしたく、小原先生に自ら研究計画を提示して、異常肉の研究をさせてくださ

いと進言した。今から思えば小原先生のような大先生にいくら血気盛んな院生とはいえ、自分の研究テーマを自分で決めるなど良くできたものだと思う。また、それを快く受け入れ励ましてくれた小原先生の懐の深さには今でも感謝に堪えない。博士課程では自分で決めたテーマなので絶対に後へは引けず、とにかく必死に研究し、何とか3年で博士論文を書き上げたことは懐かしい。私の人生の中で大学院のこの時が最も研究に打ち込んだ時期かも知れない。

大学院修了後は1年間、畜産物利用学研究室で副手をした後、これも小原先生の口添えで1981〜83年までオーストラリアの国立食肉研究所へ留学する機会を得た。この研究所でJ. Macfarlan 博士に出会えたこともまた私にとっては幸運であった。今自分が、研究者として存在できているのも彼と出会うことが出来たためと言っても過言ではない。Macfarlan 博士はその当時世界に先駆けて畜肉に超高压処理を行う研究をしており、超高压処理の研究では世界的権威であった。この超高压処理の研究はいまでも私の主要研究テーマとなっている。このオーストラリアでの2年間の研究生生活が、現在の私の研究者としてのバックボーンになっていることは確かである。

留学後は農大の総合農産加工実習所（現在の食品加工技術センター）に奉職し畜産食品ばかりではなく、食品加工全般について研究することになった。世田谷の食品加工技術センターには24年間お世話になり、自分として

は加工センターで定年を迎えるものと思っていたが、畜産学科の諸先生のお力添えもあり、前述したように昨年4月より畜産学科畜産物利用学研究室の教授として着任することが出来た。

畜産学科に戻ってみて感じたことは、畜産学科の学生諸君が世田谷の学生に比べて、非常に素直で明るいことであった。厚木キャンパス自体が、自然に恵まれた美しいキャンパスであり、古き良き農大が畜産学科には未だ脈々と流れているのを肌で感じ非常にうれしく思っている。ただ、全体として、学業に対する気迫のようなものが、今少し足りないような気がする。この辺のところをもう少し改善できれば、鬼に金棒の農大生になれると感じている。

今年の4月からは畜産物利用学研究室の主任として研究室を預かることになるが、室員の学生諸君には、研究・学問の楽しさを教えることが出来ればと思っている。そして、前述した三先生から受けたご恩を、今度は私が畜産学科の学生諸君に少しでもお返しできればと考えているし、学生諸君が卒業後も研究室や農大にいつでも戻ってくることの出来る環境を整えたいと考えている。いま古巣の畜産学科に戻ることができ、自分としては非常に幸運だと思っているし、これまで畜産学科から受けてきた数々の温情に対し、今度は私が少しでも畜産学科のため、学生諸君のために全力で報いたいと思っている。

## 駆け出しの私が今思うこと

畜産畜飼養学研究室助教

黒澤

亮

農大に入学してからちょうど10年が過ぎた平成19年の春、私は畜産学科に教員として着任いたしました。初めは短期大学部に入学し、その頃は動物・植物の両方について学んでいましたが3年次から畜産学科へ編入し、その後は大学院まで、ずっと畜産を勉強してきました。大学院の博士後期課程を修了後、飼料会社の研究所に1年間勤務し、企業養鶏の現場を経て再び農大へ参りました。教員としてはまだまだスタートを切ったばかりですが、私なりにこの先、学生の皆さんに学んで欲しいことを考えてみました。

まず、挨拶をきちんとできるようにすること。コミュニケーション能力などという言葉も取りざたされる昨今ですが、人と人とのコミュニケーションの初めの一歩である挨拶ができない、またはしないというのは非常にもつたないことだと思います。近頃の若者は挨拶がなっていないなどとも言われますが、それでも農大生は挨拶がしっかりしている、と研究室に来られた卒業生やお客様にお褒めいただくことしばしばあります。しかし農大

生の皆さんには、その評価に決してあぐらをかいてしまふことなく、今後もぜひ継続していつてもらいたいです。

次に、知識や情報の本質を見極める目を養うこと、これも非常に重要です。とある大手家電メーカーの役員が、家電の取扱説明書が分厚く難解なことに対し、「IT」情報技術ですが、発信側が一方的に流す情報はinformation、必要に応じて収集する情報はintelligenceであり、今後のITはintelligence technologyとなくてはならない。」と話しているのを聞いたことがあります。現代の高度情報化社会では、パソコン一台あれば無数の情報を享受することが出来ますが、その情報の中から、真贋を見極め、自分が本当に必要なものだけに絞り込むという作業は、ちょっとした技術のようなものが必要です。学生時代に「知識を常識に」という言葉を先生から言われたことがあります。が、そこまでの技術を身につけるには実に多くの経験が必要とします。情報が氾濫しているとも言えるような現代の学生の皆さんにこそ、それに流されないだけの判断力を養うことを、ぜひ今のうちから意識してやってみてほしいと思います。

しかしその一方で、分からないことを人に質問できる姿勢も忘れないで欲しいものです。郷に入れば郷に従えと言われるように、人の集まりごとに常識とされることは千差万別です。そのようなときに、構えることなく人に教えるを請うことができるかどうか、その集団内で有意義な時間を送れるかどうかを左右すると思います。

「判らないことは知っている人に聞くのが一番いい」と友人に言われ、なるほどと思ったことがありましたが、このことは、農大の育ての親である横井時敬先生の言葉にある「稲のことは稲に聞け、農業のことは農民に聞け」に通じるものではないかと思っています。聞ける機会があるのにそれを生かせないのは、やはり残念なことです。新しい人に出会う度、まだまだ知らないことがたくさんあると新しい自分にも出会えるはずです。

学んで欲しいことばかりを列挙してしまいました。これらのことは実は私自身が学生時代や社会人になってから、さまざまな人や物事からヒントを得て学んだことの総括とも言えることです。つまりは、学業が本分と言われる学生時代から、社会人として世間に出た後まで、本質的に重要なことは人間としての「学びの姿勢」であり、そのことは生涯に通じて変わりなく重要なものではないかと思えます。また、学ぶ者がいるということ、学びのヒントを提示する者もいるということ、世間では長引いた就職氷河期の採用縮小の影響で、後輩を指導したくない中堅社員が多く、団塊世代が一斉に退職した後、指導ができる人材の不足が深刻化しています。私は学生時代、統一本部の活動に参加していた頃、畜産学科は後輩の面倒をよく見るね、と他学科の友人から言われたことがあります。それまでとりわけ意識したこととはありませんでしたが、畜産学科には面倒見のよさという気質が受け継がれているのかなと思つたことを覚えています。

## 集う学友

### 4年間の出会い

畜産学科 4年

西川 淳子

農大で過ごした4年間は出会いの連続の日々でした。今まで学んだ事のない学問や知識との出会いであり、体験した事のない経験との出会いでもありました。そして、恩師や先輩、後輩、友人との出会い……これこそが私のこの4年間の大きな出会いでした。

忘れもしない、入学式の日。不安と緊張でガチガチな私に初めて声をかけてくれた友人は、今では私が農大での思い出を語る際に欠かせない人となりました。その後は一人、また一人と友人が増え、気が付いた時には畜産学科の中で最も騒がしいグループと化していました。毎日が楽しく、何がそんなに面白いのかと思う程の些細な事でもお腹を抱えて笑い合っていました。

私が一人暮らしを始めてからは家に連日泊まりに来てくれたり、何の前触れもなく訪れて来ては何かと理由を付けて飲み会を開き、気が付いたら朝まで語り合ったりと、今まで以上に同じ時を過ごし、友人の前で泣いた事もあれば言い争った事もあり、ここまで来ると家族同然だなぁと密かに嬉しく思っていました。私の家のチャイムが突然鳴る事がもうなくなってしまうのかと思うと、悲しいような寂

「人を育てることは百年の計」という言葉もあるように、人を育てるということは長きにわたる努力の積み重ねがきつと必要で、教育とはどういうことか、何をどのように伝えればよいのかは、現在模索しているところだ。私自身、人としても教員としてもまだまだ成長途上の状態で、先ほど学生の皆さんに学んで欲しいと申しましたことは、正直なところ私も常に目指さなければならぬことだと認識しております。こういう文章を書いていることがおこがましいという気持ちも否めませんが、自分が学生時代に教えていただいたことや、これまでに見つけたたくさんさんの学びのヒントを伝え続け、後に広い視野で、長い目線で畜産の将来を考えられる学生が育つていたらいいなと思います。何が起るかはあまり予測ができないのが教員という仕事の難しいところだと今は思っていますが、将来を支える学生が育つその頃には、難しさの中に面白さを見出せるくらいに私も成長していったらと思います。

しいような……そんな気持ちでいっぱいになります。

研究室での2年間は全速力で時間が過ぎていったような気がします。それ程密度の濃い、充実した日々でした。研究室に入ると、まずは左にある実験台から「おはよう。」という声が聞こえ、顕微鏡を覗きながらカウンターを鳴らす集団の横を通り過ぎます。ガラス越しに見える白衣の人数を数えつつ控え室に向かうと、うまい棒の香りに包まれながら先輩・後輩関係なく仲の良い、和気藹々とした光景が毎日広がっていて、私はこの雰囲気が好きでした。研究室の仲間は皆がみんな思いやりがあつて何事にも頑張るので、お互いに切磋琢磨し合う良い環境でした。余談ですが、私が入室当初に掲げていた目標である「トリ嫌いの克服」は見事果たす事が出来ました。研究室の皆さん、そしてトリさん、ありがとう。

出会いは人を成長させる、私はそう思っています。農大での出会いは私自身をどれ程大きく成長させてくれた事が計り知れません。全ての出会いに感謝し、これから訪れるであろう出会いに期待を寄せ、母校と呼ぶに相応しいこの東京農業大学を卒業したいと思っています。

最後に。卒業という大きな門出を前にして、入学式来の友人がこう言っていました。「これからの私達が楽しみだね。」と。本当にその通り！5年後、10年後の私達はどんなになっているのか、想像するだけでわくわくしてきます。昔話に花を咲かせ、変わらない笑顔で再会出来る日まで、どうかお元気で。

この一年

畜産学科 3年

高柳 俊昭

農大に来て一番入りたかった研究室が、私が所属している家畜繁殖学研究室だった。

私は成績があまり良くなかったし、毎年人気の高い研究室だったのでもう引きを覚悟した上でハンケンを一希望した。案の定くじ引きだった、しかし運良くハンケンに入ることが出来た。いつも一緒にいる友達みんな違う研究室になった。顔見知りの友人が何人かいたので、大した不安はなかったし、新しい友達もすぐに出来た。4年生とも何故かすぐに打ち解けることができた。私は普通高の出身だったので、ブタ、ヤギ、鶏の飼育はもろろん、ウシの直腸に手を突っ込むなどの経験が無かった。ハンケンにあるものすべてが、とても新鮮だった。

しかし私にも悩みがあった。私は研究室に入ってから、4年生と一緒にいることが多かったために、同じ学年である3年とは親睦を深めることが出来ていなかった。4年生も、私が同級生と仲良くなれてないことを気にしてくれていたが、私自身、4年生と話している方が楽しいと思っていた。4年生が卒業してから同級生と仲良くやっていけるか、楽しいキャンパスライフが過ごせるかと、

とても不安だった。

そんな不安を吹き飛ばすイベントがあった。それは収穫祭だった。私は大道具の係りになった。板を切ったり、ペンキを塗ったり、文展を開く教室を作るためにみんなが終夜しているうちに今まで感じていた3年生との距離が徐々に縮まっていた気がした。収穫祭が終わった後も3年生と一緒にいる時間が増えた。何でも話し合える友達が出来た。研究室に行く楽しみが増えていった。

繁研に入って1年が経つ。今では楽しい事、悲しい事、嬉しい事、辛い事を共有できる仲間がいる。これからそれぞれの道を歩むために、就職活動や卒論をやらなければならぬ。私はたくさんの思い出をこの仲間達と、もつともつと作っていきたいと思う。研究室で過ごせるのも残り1年、思いっきり過ごしたいと思う。私は家畜繁殖学研究室に入ってホントに良かったと思っている。こんなにも素敵な友達と出会うことが出来たから……

夢をあきらめないで

畜産学科 2年

佐藤 智美

私の夢は『教師』いずれ、小学校の教壇に立つのが目標だ。

元々、高校時代から免疫学や遺伝学に興味があり、本学に入学した。大学では学びたいことを学びたい、それからでも遅くない。そう考える自分がかっこよくて、半ば陶醉していた。

しかし、現実はその甘くない。現在、団塊の世代の退職に伴い、教員採用率が高くなっているが、そう何年も続くはずがない。であるならば、教師一本で今後を考えるのはとても危険であるし、来年から就職活動を始めるければならない。友人や後輩の、就職活動やインターン、教育実習等の話を聞き、将来の自分について真剣に考えるようになった。

ある日、授業で一枚の紙を回覧した。それは小学校の学級運営支援ボランティアの募集のチラシ。現在の初等教育に触れることで、自分が小学校教諭に適した才能を持ち合わせているかを知る良い機会だと思ひ、即応募した。こうして、毎週水曜日、午前中だけという短い時間ではあるが、経堂小学校で授業の補助を行うこととなっ

た。

そこでは、教えることの楽しさと難しさを学び、児童が教師に素直に反応し、日々成長していく様子を見ることができ、教員の仕事の社会的意義を感じた。また、現在の教育現場を目の当たりにしたことで、その重要性を感じたことから、より一層、初等教育に携わりたいと思うようになった。

今までこんなに悩んでいたことが嘘のように、道がパツとひらけた。もう迷うことなく自分の進むべき道をつ走ろうと心に決めた。来年からは、今、最もやりたい、学びたいことである『教育』について追及し、自分の理想とする教師像に近づけるように、勉学に励みたいと思う。

この二年間は、見るコト・聞くコト・体験するコト、ほぼ全てが私にとって初めてのものであり、あつという間に過ぎていった。よき教師・友人にも恵まれ、とても充実した時間だった。

卒業まであと二年。自分の将来の目標に向かって、それぞれ頑張っていきましょう。

## 平成19年度畜友会事業報告

平成19年6月1日～平成20年5月31日

畜友会だより

平成19年	
5月28日 ～5月31日	厚木キャンパス春季スポーツ大会参加
6月7日	平成19年度畜友会定期総会
7月中旬	一年生対象収穫祭説明会（授業終了後）
10月12日	第8回厚木キャンパス収穫祭 及び 第116回体育祭畜産学科統一本部本部開き（於 けやき）
11月2日	第8回厚木キャンパス収穫祭前夜祭
11月3日 ～4日	第8回厚木キャンパス収穫祭 （家畜苑、研究棟アート、特別企画、宣伝隊）
11月5日	第116回体育祭参加（於 世田谷キャンパス）
11月19日	第8回厚木キャンパス収穫祭 及び 第116回体育祭畜産学科統一本部慰労会 （於 食堂・けやき）
12月17日 ～20日	厚木キャンパス冬季スポーツ大会参加
平成20年	
3月20日	畜友会誌「ふじみの」44号発行
3月21日	卒業祝賀会・卒業記念品贈呈
4月下旬	新入生歓迎会（於 食堂・けやき）

## ラクロスと統一と勉強とバイトと

畜産学科 1年

佐藤 晴香

一年前、私はこの大学に入学した。当時の私は大学生活については不安だらけで、ただひたすら高校生活との別れを惜しんでいた。何故なら、私は高校生活において後悔していることがあったからだ。それは、受験勉強のためと言って、やりたいことを諦めてきたことだ。やりたいことを諦め、そしてできた時間を、私は結局有効に使ったことができなかった。だったら好きなことをやればよかった。そう私は後悔していた。

そして始まった大学生活。正直私は大学生活についてあまり期待をしていなかった。高校のように全力で何かに打ち込むこともなく、友達もきつと浅い付き合いで終わるのだろうと思っていた。しかし、私は統一本部というものに出会った。これは高校時代にやり残してきた事の一つ、学園祭に再挑戦するチャンスだと思った。そしてこの時は、もう二度と高校の時のように後悔することがないように、やりたいことは一通り挑戦してみようと決心した。

何かスポーツをやりたいと思っていた私は、フレンドリーな先輩達に惹かれ、ラクロスサークルに入った。ラ

クロスというスポーツ自体はもちろん、サークルの仲間といることが本当に楽しくて、日々の練習がまったく苦にならない。大変なのは承知の上で、教職課程も履修した。高校卒業前に始めたバイトも、これらの費用を負担するために、今もまだ続けている。今振り返ってみれば、ラクロスに統一に教職にバイトに、今までの人生で一番多忙な一年間だったかもしれない。だがその分、一番充実した一年間だったとも思う。たった一年の大学生活でこんなことを言うのはまだ早すぎるかもしれないが、この大学に入学して、学科やラクロスや統一の仲間達と出会えて本当に良かったと思っている。

これからの生活の中で、いつか何かを諦めなければならぬ時がくるかもしれない。でもそれが挑戦した結果ならば、後悔はしないだろう。だからそれまでは全力で大学生活を楽しみたいと思っている。最後に、こんな私の生活を支えてくれている家族、友達、先輩、バイト仲間には本当に感謝しています。これからもどうかよろしくお願いします。

## 特別会計収支決算報告

平成18年6月1日～平成19年5月31日

### II. 収獲祭特別会計

収入の部

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差額
一般会計より	1,000,000	1,000,000	0
雑収入	0	238	△238
当期収入合計(A)	1,000,000	1,000,238	△238
前期繰越収支差額	177,350	177,350	0
収入合計(B)	1,177,350	1,177,588	△238

支出の部

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差額
統一本部	700,000	683,950	16,050
特別企画	0	0	0
体育祭	70,000	55,838	14,162
宣伝隊	150,000	112,175	37,825
装飾	50,000	49,986	14
家畜苑	130,000	130,000	0
予備費	45,000	410	44,590
当期支出合計(C)	1,145,000	1,032,359	112,641
当期収支(A)-(C)	△145,000	△32,121	△112,879
次期繰越収支差額(B)-(C)	32,350	145,229	△112,879

上記のとおり報告する。  
平成19年6月25日

畜友会会長 渡邊 忠 男 ㊞

上記に相違ないことを認める。  
平成19年6月25日

平成18年畜友会監査委員

桑山 岳人  
西岡 莊平

村上 覚史  
岡 泰平

### 監査報告書

畜友会会則第9章、第29条及び30条の規定に基づいて平成19年6月25日に平成18年度業務及び会計監査を実施致しました。

事業報告、通帳、出納長及び領収書を精査した結果、適切に遂行されたことを認める。

## 平成18年度収支決算報告

平成18年6月1日～平成19年5月31日 ※1)

### I. 一般会計

収入の部

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差額	備考	
会費	新入生(19年)	1,800,000	950,000	850,000	10,000円×95名
	編入生(19年)	50,000	20,000	30,000	5,000円×4名
	過年度分(18年)	2,885,000	1,040,000	1,845,000	10,000円×99名+5,000円×10名
雑収入	10	16,029	△16,029	※2)	
当期収入合計(A)	4,735,000	2,026,029	2,708,971		
前期繰越収支差額	1,545,600	1,545,600	0		
収入合計(B)	6,280,600	3,571,629	2,708,971		

※1)ふじみの印刷費の振込等が6月7日になってしまった為、6月7日までの収支決算報告となっている。

※2)祝儀(第7回収獲祭実行委員会 5,000円×2 ラウンドハウス 1,000円×2 世田谷キャンパス収獲祭6本部 4,000円)

支出の部

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差額	備考
収獲祭援助費	1,000,000	1,000,000	0	特別会計へ
ふじみの印刷費	430,000	554,400	△124,400	※3)①、②
卒業祝賀会費	180,000	179,000	1,000	
卒業記念費	400,000	234,675	165,325	300個製作
新入生歓迎会費	150,000	128,181	21,819	
消耗品費	30,000	12,810	17,190	
通信運搬費	100,000	1,492	98,508	
雑費	50,000	9,450	40,550	
予備費	230,000	0	230,000	
当期支出合計(C)	2,570,000	2,120,008	449,992	
当期収支差額(A)-(C)	2,165,000	△93,979	2,258,979	
次期繰越収支差額(B)-(C)	3,710,600	1,451,621	2,258,979	

※3)①1,100部(428,400円) ②250部(126,000円) 計1,350部

残高証明	郵便局	¥1,376,136
	三井住友銀行(畜友会)	¥75,485
合計		¥1,451,621

## 特別会計予算

平成19年6月1日～平成20年5月31日

### II. 収穫祭特別会計予算(案)

#### 畜友会 援助費

(単位:円)			
収入の部	予算額	前年度予算額	差額
一般会計より	700,000	1,000,000	△300,000
雑収入	1,000	0	1,000
畜産学科助成金			
当期収入合計(A)	701,000	1,000,000	299,999
前期繰越収支差額	145,229	177,350	△32,121
収入合計(B)	846,229	1,177,350	△331,121

#### 支出の部

(単位:円)			
科目	予算額	前年度予算額	差額
統一本部	395,000	700,000	△305,000
特別企画	0	0	0
体育祭	65,000	70,000	△5,000
宣伝隊	150,000	150,000	0
装飾	50,000	50,000	0
家畜苑	130,000	130,000	0
予備費	30,000	45,000	△15,000
当期支出合計(C)	820,000	1,145,000	△325,000
当期収支差額(A)-(C)	△119,900	△145,000	26,000
次期繰越収支差額(B)-(C)	26,229	32,350	△6,121

#### 農友会 学科助成金

(単位:円)			
収入の部	予算額	前年度予算額	差額
一般会計より			
雑収入			
畜産学科助成金	1,670,000	1,630,000	40,000
当期収入合計(A)	1,670,000	1,630,000	40,000
前期繰越収支差額			
収入合計(B)			

#### 内 訳

(単位:円)			
科目	第8回予算	第7回予算	差額
学科助成金	計650,000	計650,000	0
神輿代	130,000	130,000	0
パネル代	100,000	100,000	0
応援合戦衣装代	130,000	130,000	0
事務費	40,000	40,000	0
記録費	50,000	50,000	0
交通費	200,000	200,000	0
学内装飾費	計180,000	計150,000	30,000
家畜苑費	計840,000	計830,000	10,000
綱管代	190,000	190,000	0
運搬代	390,000	380,000	10,000
装飾代	260,000	260,000	0
合計	1,670,000	1,630,000	40,000

## 平成19年度畜友会予算

平成19年6月1日～平成20年5月31日

### I. 一般会計予算(案)

#### 収入の部

(単位:円)

科目		予算額	決算額	差額	備考
会費	新入生(H19年)	1,800,000	1,800,000	0	
	編入生(H19年)	50,000	50,000	0	
	通年度分(H18年)	3,290,000	2,885,000	405,000	※1)
雑収入		0	0	100	
当期収入合計(A)		5,140,100	4,735,000	405,100	
前期繰越収支差額		1,451,621	1,545,600	△93,979	
収入合計(B)		6,591,721	6,280,600	311,121	

※1) 1年生……………10,000円×136名  
 2年生……………10,000円×126名+7,500円×2名  
 3年生……………10,000円×29名+5,000円×8名+7,500円×2名  
 4年生……………10,000円×29名+5,000円×4名

#### 支出の部

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差額	備考
収穫祭援助費	700,000	1,000,000	300,000	
ふじみの印刷費	430,000	430,000	0	
卒業祝賀会費	180,000	180,000	0	
卒業記念品費	400,000	400,000	0	
新入生歓迎会費	150,000	150,000	0	
消耗品費	30,000	30,000	0	
通信運搬費	100,000	100,000	0	
雑費	50,000	50,000	0	
予備費	230,000	230,000	0	
当期支出合計(C)	2,270,000	2,570,000	△300,000	
当期収支差額(A)-(C)	2,870,100	2,165,000	705,100	
次期繰越収支差額(B)-(C)	4,321,721	3,710,600	611,121	



## 平成19年度畜友会役員

平成19年6月1日～平成20年5月31日

役 職	氏 名	研 究 室
会 長	渡 邊 忠 男	家畜衛生学研究室
副 会 長	池 田 周 平	家畜飼養学研究室
副 会 長	花 田 博 文	家畜育種学研究室

### ・執行委員

委 員 長	3 年 野 口 桂 三	畜産マネジメント研究室
副 委 員 長	3 年 宮 本 明 歩	家畜生理学研究室
	2 年 西 村 光 平	家畜育種学研究室
書 記	3 年 松 山 友 美	家畜繁殖学研究室
	2 年 芦 澤 友 喜 乃	家畜育種学研究室
会 計	3 年 矢 野 抄 子	野生動物学研究室
	2 年 甲 斐 田 浩 司	家畜育種学研究室
渉 外	3 年 石 川 怜	家畜飼養学研究室
	2 年 秋 澤 克 哉	家畜飼養学研究室
企 画	3 年 山 縣 瑞 恵	野生動物学研究室
	2 年 田 辺 義 高	家畜生理学研究室
庶 務	3 年 峯 野 直 也	家畜育種学研究室
	2 年 秋 山 悠	家畜育種学研究室
編 集	3 年 久 保 田 朋 美	家畜飼養学研究室
	2 年 尾 内 泰 穂	家畜飼養学研究室
監 事	桑 山 岳 人	家畜繁殖学研究室
	村 上 覚 史	家畜衛生学研究室
	3 年 岡 泰 平	家畜飼養学研究室
	2 年 野 間 口 俊 二	家畜繁殖学研究室

## 第八回厚木キャンパス収穫祭・第一一六回体育祭 事業報告及び結果報告

### 【事業報告】統一本部

畜産学科統一本部の第8回収穫祭での活動は、収穫祭宣伝活動、研究棟アート、特別企画、家畜苑、櫓装飾、体育祭を行いました。

統一本部（委員長、副委員長）の活動としては先生方と連絡を取り畜産学科統一本部の各部門及び第8回厚木キャンパス収穫祭実行本部、農学科統一本部、バイオセラピー学科統一本部、世田谷キャンパス13学科統一本部と連絡を取り合い、また、畜産学科統一本部をまとめ8回目となる厚木キャンパス収穫祭、第一一六回体育祭を成功させようと最後まで全力疾走しました。

本年度は、良い雰囲気の中作業を行うことができ、天候にも左右されることなく、収穫祭、体育祭を終えることができました。

来場者数も昨年を上回り、これも皆様方のご協力があったからこそ結果だと思えます。

来年度は、第9回を迎えるに当たり、本年度学んだことを糧とし、より良い収穫祭を作り上げたと思います。



### 特別企画

今年も多くの学生や地域の方々に参加し、楽しんでいたようなステージを特別企画本部が一丸となって作り上げました。

今年の収穫祭は、わが家自慢のペットのコンテスト「三丁目のたま・ぼち」、仲間たちと一緒にゲームに挑戦した「ぶうぶう愛らんど」、「Agencysアゲエンス」は、巨大なしゃぼん玉を作ったりと、来場者の皆さんにも楽しんでいただくことができました。

そして、厚木市民団体による和太鼓やウインドオーケストラ部による演奏もあり、子供には大人気のバルーンアートの「みんなががんばルーン」や親子が一つになって参加する親子対抗のゲーム企画「おやこちから」、農大ならではの問題を出題する「これであなたも農大博士?」×クイズ」等、毎年恒例となった企画でも来場者のみなさんに参加していただきました。

また、よさこいソーラン同好会による「大黒天、演舞、07」では迫力のある演舞を、学内より募集したバンドによる「らいぶ☆ふえすた2007」では熱いライブを披露してもらいました。

学生メインの企画では、農大のミス、ミスターを決める「NBC\Nodai Beauty contest」、農大のメンズを華麗に変身させた女装コンテストの「女!?男!?どんだけーっ!!」などの企画をやり、大いに盛り上がりました。

## 宣伝隊

宣伝隊とは、東京農業大学厚木キャンパスのモチーフである大根と鮎の柄の入った白い浴衣に、臙脂色の法被を羽織り、足袋を履いて、厚木市内、市外のお祭りや、周辺の駅に行き、ビラを配ったり、時には大根踊りなどの農大ならではのパフォーマンスも行いながら、収穫祭を宣伝する部門です。

収穫祭当日までの宣伝隊の活動には、八月に行われる『鮎まつり』のDANCEパレード参加から始まり、各駅での宣伝活動や、商店をまわってポスターを貼ってもらったりビラを置いてもらう活動、いよいよ学内も盛り上がりつつきた十月には、神輿も登場する一番街でのパレード、全学応援団のリーダー公開や野菜の無料配布を行うSATY前宣伝活動、学内の学生に向けた学内パレード、伊勢原市の畜産まつりでの宣伝活動などがあります。

どの活動でも、沢山の人が「今年も行くからね。がんばってね。」と声をかけてくださり、とても嬉しく、やりがいを感じました。

収穫祭当日は、午前、午後、と二日間で計四回、野菜の無料配布を行い、今年は配布場所の変更もあり、トラブルが起こったりしないか不安でしたがなんとか配り終えることができました。講義棟二階三階を使ったちびっ子アートギャラリーも、親子で見に来てくれる方などがかなりいて、その効果を実感できました。

来年度は、厚木キャンパス周辺の方には収穫祭をもっと

## 体育祭

体育祭は毎年収穫祭の後に世田谷キャンパスグラウンドにて行われます。当日は16学科揃っての入場行進で始まり、大玉転がし、綱引き、先生頑張って、玉入れ、各学科対抗リレーなど様々な競技が行われます。

競技の部、部活対抗リレーでは、各部活の特徴を活かしたパフォーマンスをしながら走り、とても盛り上がりました。

また、体育祭の目玉の一つとも言える応援の部では、それぞれの個性を出し合い互いの学科を応援しあう応援合戦です。

私たち畜産学科の今年のテーマは「忍者」でした。踊りもさることながら特に衣装には工夫を凝らし、風呂敷を開くとマントになり、マントには牛マークならぬ豚マークが現れるというもので、踊りを教えるのと同時進行での作業はとても簡単なものではありませんでした。

残念ながら順位として良い結果は残せませんでした。学内の皆様のご協力と統一内の理解のおかげでとても楽しく忘れられない体育祭になりました。また、来年も今年以上に盛り上がることをご期待下さい。



身近に感じてもらえるように、それ以外の方にも一人でも多く東京農業大学厚木キャンパス収穫祭を知ってもらえるように頑張っていきたいです。

神輿部門は八月中旬から厚木パレードに向けて作業を開始しました。今年の厚木パレードは晴天で、みんなで作った衣装を着て厚木一番街を練り歩きました。大勢で担いだ神輿とおそろいの衣装は迫力があり見事でした。第一一六回体育祭では、全学科中2位と素晴らしい成績を収めることができました。第一一五回体育祭から順位を二つ上げ、良い結果を残すことが出来ました。来年は神輿だけでなく、宣伝隊とより協力して来場者数を増やせるよう努めていきたいです。

## 櫓装飾

「櫓」とは、毎年世田谷キャンパスで行われる体育祭での各学科の応援席のようなものです。高さ約5m50cm、横幅約9m、奥行き約3mの巨大な作品です。

本年度、畜産学科の櫓は例年とは違いパネルの絵の他に初めての試みであるブラインドを使って絵を動かし複数の絵を表現しました。縦約3m横約2mのブラインドを4つ使って亥年にちなんだ猪の絵とかわいらしい豚の絵を描きました。パネルには体育祭の踊りのテーマに合わせて城の絵を描きました。城の両側にはみんなの手形で桜を描き、みんなで力を合わせて体育祭を盛り上げていこうという思いを表現しました。

応援席の下には「畜産戦隊」と書き、周りを花札風に仕上げました。

この作品は準備、組み立てに至る様々な部分でみんなの協力があったからこそ完成することができたのだと思います。結果は残念ながら5位で入賞とまではいきませんが、その過程の中でたくさんの人に助けられ、支えられ、仲良くなることができましたことは私にとって結果以上のものを与えてくれました。

## 研究棟アート

研究棟アートとは研究棟の壁一面に巨大な絵を掲げ、収穫祭が間近であることを知らせ、より多くの人に来ていただきたいという宣伝のために作られたものです。

この絵は縦15メートル横1.2メートルの白い布を12本繋ぎ合わせることで出来上がります。その大きさは約14平方メートルにもなります。この絵のようにみんなで力を繋ぎ合わせ、1つの大きな収穫祭を作り上げていこうという願いもこめられています。

今年も校内から見える場所にも1枚、絵を掲げました。これは収穫祭を校内から盛り上げようと思い作りしました。今年は3枚ともポップに仕上がりと、どの絵を見ても収穫祭が面白そうに見えるように工夫しました。また作業期間中に農大が箱根駅伝へ出場することが決定したことで急遽、3枚目の絵に変更を加えたりしました。

今年の作業は例年よりもスムーズに終了しました。これは多くの方々に協力していただいたおかげであり、本祭1週間前から絵を掲げることができ、より多くの方々に収穫祭の知らせをお届けする事が出来ました。また、このアートを通してみんなの力が1つとなり、収穫祭の成功への祈りやこの収穫祭が全て手作りの文化祭であるという事も皆様にお伝えできたことと思います。

## 【結果発表】

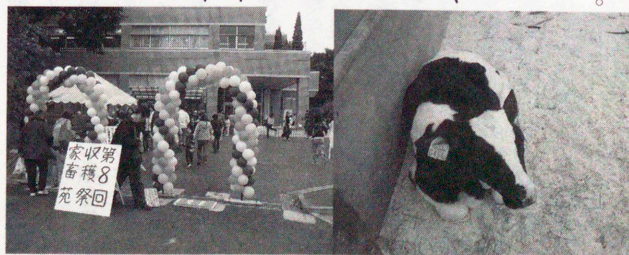
### 体育祭

総合順位	第6位
競技の部	第6位
先生頑張っ	第2位
槽装飾の部	第5位
応援の部	第8位
神輿の部	第2位

## 家畜苑

家畜とは経済動物であり私達が生きていくうえで必要不可欠である。家畜苑とは家畜に触れ合うことで命を感じ、家畜の命と引き換えに私たちの生活があるという事を理解していただく場である。しかし、家畜苑への来場者のほとんどが親子連れ、家畜と見るより可愛い動物としか見てもらえないというのが現状である。対策として、ペットではなく経済動物である家畜の運命をしっかりと理解してもらうため、展示家畜の品種説明、誕生から出荷、消費者へ届くまでの過程(食の安全)についてまとめた。また、説明文もわかりやすく大人用、子供用に分けスタンラリーとクイズを組み合わせ楽しみながら家畜について学べるようにした。イベントではラマとの記念撮影、牛のブラッシング、鶏の孵化の展示や雛を手にとってもらったことで命を感じてもらえるようにした。

今回の家畜苑への来場がきっかけとなり命の大切さ、家畜の命と引き換えに私たちの生活があるということを感じてもらえれば幸いであり、(命)食(食べ物)を粗末にしないように願う。



# 東京農業大学農学部畜産学科 “畜友会”会則

## 第一章 総則

- 第一条 本会は東京農業大学農学部畜産学科畜友会と称する。
- 第二条 本会は事務局を東京農業大学農学部畜産学科内に置く。
- 第三条 本会は会員相互の親睦を図り、併せて畜産学科の発展に寄与することを目的とする。

## 第二章 業務

- 第四条 本会は第三条の目的達成のために次の事業を行う。
- (1) 会員相互の親睦
- (2) 講習会、研修会及び研究会発表の開催
- (3) 機関紙「ふじみの」の発刊
- (4) 大学行事（収穫祭等）への参加
- (5) その他第三条に付帯する業務

## 第三章 会員及び役員

- 第五条 本会の会員は次の通りとする。
- (1) 正会員 畜産学科の学生
- (2) 特別会員 畜産学科教職員ならびに大学院生

## 第六条

- (3) 名誉会員 役員会の推薦を受け、総会の承認を得た者。
- 本会は次の役員を置く。
- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 執行委員
- |      |    |
|------|----|
| 委員長  | 1名 |
| 副委員長 | 2名 |
| 書記   | 2名 |
| 会計   | 2名 |
| 渉外   | 2名 |
| 企画   | 2名 |
| 庶務   | 2名 |
| 編集   | 2名 |
| 監事   | 4名 |
- (1) 会長は会を代表し、会務を総理する。
- 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれを代理とする。
- また1名は総務を他の1名は会計を分担する。
- (2) 委員長は会長の指示を受け、執行委員会を統括する。
- 副委員長は委員長を補佐し、委員長不在の時はその代理をする。各委員長はそれぞれの会務を分担執行する。

## 第八条

- (1) 本会には連絡委員を置く。
- (2) 連絡委員は1、2年次からそれぞれ4名、各研究室から1名選出する。連絡委員は各学年および各研究室の意見を掌握し、連絡委員会での意見を反映するとともに執行委員会への決定事項を会員に伝達する。

## 第九条

- 役員および連絡委員の選出および任期
- (1) 会長は畜産学科長がこの任にあたる。
- 副会長および監事は、会長が畜産学科教職員の中から推薦し、総会において決定する。
- (2) 執行委員は、執行委員会に基づき総会において決定する。但し、委員長は3年次生、各執行委員の2名の内1名は3年次生、ほかの1名を2年次生より選出するものとする。
- 尚、監事4名の内の2名は畜産学科教職員がその任にあたる。また、監事は他の役員を兼任することはできず、その任期は原則として1年とし、再任を妨げない。
- (3) 執行委員に欠員を生じた場合は、執行委員会に諮り補充することができる。
- (4) 連絡委員は、各学科〔1、2年次〕および各研究室〔3、4年次〕で協議のうえ選出する。また、任期は原則として1年とし、再任を妨げない。

## 第四章 総会

## 第十条

- (1) 総会は定期総会とする。
- (2) 総会は正会員および特別会員を持って構成され、本会の最高意思決定機関とする。
- (3) 定期総会は原則として年一回、六月に会長が招集し、開催する。
- (4) 臨時総会は会長が必要と認めた場合ならびに正会員および特別会員総数の四分の一以上の同意を得て開催目的および招集理由を記載し、会長に提出する時招集開催することができ。

## 第十一条

総会開催は七日以前に公示しなければならない。

## 第十二条

- (1) 総会は正会員および特別会員の四分の一以上の出席により成立する。
- (2) 委任状は所定の用紙に署名捺印のうえ議長に一任する。
- 委任状は総会の定足数に含まれるが、正会員および特別会員の五分の一を上限とする。

## 第十三条

- 定期総会は次の事項を決議する。
- ① 前年度の事業報告および収支決算報告
  - ② 次年度の役員
  - ③ 次年度の事業計画および収支予算
  - ④ 会則の改正
  - ⑤ その他

第十四条 総会における議長は総会においてその都度互選する。尚、必要に応じて議長は副議長を指名することができる。

第十五条 議長は書記2名と議事録署名名人2名を選出する。尚、議事録署名名人の内1名は畜産学科教職員とする。

第十六条 総会の議決は出席者の過半数によって議決され、可否同数の場合は議長の決するところによる。

第十七条 総会出席者により執行委員の不信任を可決することができる。但し、この場合の出席者には委任状は含まない。

## 第五章 執行委員会および連絡委員会

第十八条 (1) 第六条(3)の執行委員会は本会の最高執行機関たる執行委員会を構成する。  
(2) 会長および副会長は必要に応じて執行委員会に出席することが出来る。

第十九条 執行委員会は原則として月一回委員長が招集する。執行委員会は執行委員の3分の2以上により成立する。執行委員会の議長は委員長が勤め、出席者の過半数より可決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

第二十条 執行委員会は総会の議決に基づき、本会の目的遂行に関する一切の会務を執行処理する。

第二十一条 執行委員会で議決された事項について、委員

第二十二條 長は会長および副会長に文章で必ず報告する。連絡委員会は委員長が総会前に必ず招集開催する。また、委員長が必要を認めた場合に開催することができる。

(1) 連絡委員会には執行委員および連絡委員が出席する。議長は委員長が務める。

(2) 連絡委員会は次の事項を処理する。

① 執行委員会で決定した事項の伝達。

② 一、二年次および各研究室からの意見の聴集および意見交換。

(3) 連絡委員会には必要に応じて会長、副会長も出席することが出来る。

第二十三條 本会の事業年度および会計年度は六月一日に始まり、翌年の五月末日までとする。

## 第六章 会計

第二十四條 本会の運営は会費および寄付金ならびにその他の収入を以ってこれにあてる。

但し、第四条の目的を達成のため臨時徴収する場合もある。

第二十五條 (1) 会費は年間二、五〇〇円とし、入学時に一括して一〇、〇〇〇円を納入する。編入・転学科学生は学年に応じた金額を一括納入する。但し、一度納入した会費は返金しない。しかし、入学取り消しの場合はその限りではない。

## 第九章 監査

第二十九條 監事は本会が目的達成の為、円滑に業務を執行しているか否かを監査する。

第三十條 監事は前条目的の為業務監査および会計監査を行い、その結果を総会において報告する。尚、必要と認めた場合は臨時監査することができる。

## 第十章 付則

第三十一條 本規定の最終解釈は役員会で行う。

第三十二條 本会則は前規約を改正し、平成一〇年二月二〇日よりこれを試行する。

## 第七章 機関紙「ふじみの」編集発行

第二十七條 (1) 第四条(3)の目的達成の為に編集委員会を設ける。

(2) 編集委員会の委員は執行委員および正委員の中から若干名選出する。

(3) 編集委員会の責任者は編集委員のうち1名が担当する。

(4) 編集委員会は機関紙「ふじみの」の編集発行を責任もって執行する。

## 第八章 大学行事への参加

第二十八條 (1) 第四条(4)の目的達成の為に必要に応じて委員会を設ける。

(2) 設けた委員会は本会の目的達成の為に執行委員会の意思を受け運営する。

尚、内規は別に定める。

(3) 委員会の責任者は執行委員の内1名が必ず当たる。構成員については、正会員の中から必要に応じた人数を選出する。

# 畜友会収獲祭内規

## 第一章 目的

- 第一条 本内規は東京農業大学農学部畜産学科畜友会会則（以後畜友会会則と称す）第28条によりこれを定める。
- 第二条 収獲祭は東京農業大学農友会厚木支部収獲祭規定第1条および第9条に基づく収獲祭に参加する。

## 第二章 組織および役員

- 第三条 収獲祭を円滑に運営するため畜産学科収獲祭実行委員会（以後実行委員会と称す）として次の組織を置く（以後6本部と称す）。
- 1、統一本部
  - 2、宣伝隊実行本部
  - 3、特別企画実行本部
  - 4、学内装飾実行本部
  - 5、家畜苑実行本部
  - 6、体育祭実行本部
- 第四条 実行委員会に次の役員を置き、会務を処理する。
- |        |     |
|--------|-----|
| 会長     | 1名  |
| 副会長    | 2名  |
| 統一本部顧問 | 若干名 |

## 第五条

- |           |     |
|-----------|-----|
| 統一本部委員長   | 1名  |
| 統一本部副委員長  | 1名  |
| 統一本部会計    | 1名  |
| 各実行本部顧問   | 若干名 |
| 各実行本部責任者  | 各1名 |
| 各実行本部副責任者 | 各1名 |
| 各実行本部会計   | 各1名 |
- (1) 会長は畜友会会長がこれにあたる。副会長は畜友会副会長がこれにあたる。
- (2) 統一本部顧問および各実行本部顧問は畜産学科教職員より会長がこれを委嘱する。
- (3) 統一本部委員長は畜友会執行委員がこれにあたる。統一本部副委員長、統一本部会計、各実行本部責任者、各実行本部副責任者および各実行本部会計は統一本部委員長が畜友会執行委員会の承認を得た後、会長および各実行本部顧問の了承を得てから委嘱する。
- (4) 統一本部および各実行本部の担当者は正会員の中から募集し、統一本部委員長がこれを委嘱する。
- (1) 会長は会務を統括する。副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときはこれを代理する。
- (2) 統一本部顧問および各実行本部顧問は統一本部および各実行本部の指導にあたる。

## 第六条

- (3) 統一本部委員長は各実行本部を統括する。統一本部副委員長は統一本部委員長を補佐すると共に統一本部担当者として各本部の円滑な運営活動を助ける。
- (4) 各実行本部責任者は各実行本部の運営を担当する。各実行本部副責任者は各実行本部責任者を補佐すると共に各実行本部担当者と協力して円滑な運営・実施にあたる。
- 第七条 実行委員会の機関として6本部会議および各実行本部会議を置く。

## 第四章 付則

- 第十二条 本内規の改正は6本部会議で原案を作成し、畜友会執行委員会に諮った後、畜友会定期総会で承認を得る。
- 第十三条 本内規は平成15年6月1日よりこれを実施する。

## 第三章 会計

- 第八条 収獲祭の会計は特別会計として畜友会収獲祭

みんなの笑顔

統一本部委員長

3年 野口 桂三

気がつけばもう3年。1年生の時、先輩に誘われて出会った畜友会。先輩達を見てあんな楽しく、本当に分かち合える仲間を作りたい。それだけの思いで入りたいたいと思った畜友会。

楽しみな気持ちと不安な気持ちがあつて、自分は上に立つて指示をするタイプよりみんなと共に分かち合つてやってみていくタイプだから2年生の時、副統一委員長やってみて不安で一杯になつたけど、そんな時、仲間や先輩達に助けられました。そして、真史さんの存在は何より大きかつた。

委員長法被を受け継いで第8回の収穫祭は自分なりに色を出していくと決めた。そして、光平と共にまとめた畜統。光平は俺には持っていないものを持つてゐるが、何か足りない(笑)でも、やつていくうちにドンドン成長していつか、色々あつたけど光平と統一ができたことはうれしかった。1年間はアツという間で、色々な障害や様々な問題があつたけど、みんなの収穫祭に対する思いが大きくて自分も刺激され、成長することができました。

だいたい前に先輩から「委員長は心から楽しめるもんじやない。みんなの笑顔や満足しているのを見て、やつてよかったって感じるんだ。」と言われたことを思い出す。確かにみんなたくさんの笑顔が見れた時、本当にやつてよかったと思つた。あの笑顔や共に笑つたことは一生忘れない。

第9回収穫祭は去年の反省を生かして、さらにたくさん笑顔が生まれることを期待して見守っていきたくです。

最後に、ずっと支えてくれた・・・たいへい、みね、なすの、みずえ、みわ、しょうこ、ともちゃん、うざわ、まい、あきは、トム、ちえる・・・あやのありがとう最高の仲間だよ。また先生方には大変ご迷惑ご心配をお掛けしました。そして、第8回収穫祭を作り上げた皆様お疲れさまでした。



トツキーズ

特別企画委員長

3年 峯野 直也

去年、先輩から法被を渡され、今年度の特別企画委員長に任命されて早1年。この1年はあつという間でしたが、とても濃い1年だつたと思います。

第8回収穫祭特別企画本部が動き出したのは4月のことでした。総務、農学、畜産、バイオセラピーのみんなが集まり、『今年はどうなステージにしよう?こんな企画はどうだろう?ステージの位置はどこにしよう?』と会議をしていたのを、まるで最近のことのように鮮明に思い出せます。

初めは不安とプレッシャーでいっぱいでした。みんなをまとめるにはどうすればいいんだろう?何も知らない後輩にはどう説明すればいいんだろう?どうすればみんなが楽しめる企画ができるんだらう?時間とともに委員長の名前が重く押し掛かつてきました。さらに10月に入ると、いろいろなハプニングがあり、時間はいくらあつても足りないという状態でした。それでも最後までやり遂げることができたのは、企画を作るのが楽しいから、統一のメンバーがいてくれたから、そして何より相方の加藤麻衣と大岡理恵がいてくれたか



らだと思えます。この2人とは共に笑い、怒り、時には涙したりと、決して楽しいことばかりではなかったけれど、今となつてはいい思い出です。特に麻衣には本当に迷惑をかけたと思えます。自分がしっかりしていなかったり、はっきりしないことがあると、自分の代わりに麻衣が頑張ってくれて、正直、自分より委員長らしかつたんじゃないかと思えます。本当にありがとう!

今年はステージの位置が変わつてしまい、去年と比べると若干人が集まってくれなかつたような気がします。思つていたよりも模擬店の方からだと見えなくて目立たないというのも確かなんですが、自分たちの力不足というのも確かだと感じました。その点では少々心残りですが、大切なのは「結果」ではなく「過程」。自分はその考えます。今年の収穫祭、自分は準備の時や企画をやっている最中、みんなと協力できてとても楽しかつたし、悩んでいたり、困っていた時は助けてもらい、仲間の暖かさを感じる事ができました。みんなにはとても感謝しています。ありがとうございました。

最後になりましたが、第8回収穫祭特別企画本部を支えて頂いた参与の先生方、ならびに収穫祭実行本部、農友会各支部の皆さんにこの場をお借りし御礼申し上げます。

## 宣伝隊！いえい！

宣伝隊長

2年 芦澤 友喜乃

まだまだ宣伝隊としての経験も、畜産学科統一本部の一員としての経験も全然足りていなかった去年の夏、私は先輩から畜産学科宣伝隊長の法被を引き継ぎました。

隊長になって、はじめのうちは、突然の立場の変化に呆気にとられていたこともあり、隊長になった実感もあまりなく、その責任も感じていませんでした。

夏休み後半になり、だんだんと宣伝隊らしい活動が増え、他の統一の仲間への宣伝活動の連絡や、人集め、会議などとおして、私は畜産学科の宣伝隊長なんだ、ということがだんだんと実感されてきて、その責任が重く感じられることも増えてきました。

本年度の畜産学科の宣伝隊は私一人でしたが、宣伝隊は厚木三学科でまとまって活動していく部門なので、宣伝隊のプレハブはいつもとても賑やかで、笑いが絶えませんでした。

会議ではみんな熱くなって、隙間風に寒い寒いと言いつつもみんななでや



る作業は楽しかった。ほんとにほんとに楽しかった。

宣伝隊は、他の神輿や櫓、装飾のように何かを作り上げる部門ではないけれど、その醍醐味と言えば、各駅やお祭りなどの宣伝活動だと思う。

何度か行った各駅宣伝活動では、「この前、他の駅であなただけがピラ配つてるところみたわよ。今年も収穫祭行くからがんばってね。」と声をかけてくれるおばさんもいて、すごくうれしく、宣伝隊やってよかったな〜と感じました。

あえて、宣伝隊が何かを作っているとすれば、「収穫祭の雰囲気」だと思う。私たち宣伝隊は、厚木キャンパスから収穫祭の盛り上がりを持ち出して、「すごく楽しいお祭りの雰囲気」にして、厚木市内、市外の一人でも多くの人に届ける部隊だと思っているから。

今年は、天候に恵まれず、みんなで会議を重ね、準備を頑張ってきた宣伝活動がいくつかできなくなった。悔しいことやうまくいかないこともあった。私の担当した「農大ちびっ子アートギャラリー」では最後の最後で大失敗、沢山の人に迷惑をかけ、反省点も沢山ありました。

でも幸い、私はまだ二年なので来年も宣伝隊をやることが出来ます。今年の反省を生かしてリベンジです！本年度のように来場者数を増やすことはもちろん、来てくれた方に、来年も絶対来ようと思ってもらえるような収穫祭にするために、宣伝隊、統一の仲間と頑張っていきたいです。

## 神輿っていいね!!!

神輿隊長

3年 岡 泰平

今回、畜産学科統一本部神輿部門の隊長を務めさせてもらったのだが、今思い返すと、ほんと頼り無い隊長であったなと思いつくしかなかった。

作業は8月の中旬から開始しただしたが、自分の連絡不足により神輿製作開始初日から神輿のメンバーが全員で集合できなかったり、始まって3日目で自分が2週間の実習に行ってしまう作業の指揮がとれなかったり、神輿の設計図が不完全で見にくく神輿のメンバーに伝わりづらかったり、終夜中に終夜のしすぎで1日行方不明になったりなど、色々と言った畜統の皆には迷惑をかけさせてしまったりで……でも、そんな自分に文句も愚痴も言わずに（本当はわからないけど）自分を支え、ついてきてくれた奈須野（奈須野 光、鶴澤（鶴澤 朋未）、義高（田辺 義高）、甲斐田（甲斐田 浩司）、里美（潮田 里美）には本当に感謝してもきれないほどに感謝している。3年の奈須野、鶴澤には、研究室や就活で忙しい中自分がないとき、神輿の



製作指揮をとってもらったりした。時には3年生が全員いない日もあり、その時には2年生の義高、甲斐田、里美だけに作業を任せられた時もあった。

途中、神輿の製作の際色々悩んだこともあった。自分が当初思い描いていた神輿とは形が変わってしまった。なかなか神輿のメンバー全員があつまって作業ができなかったり……しかし、自分の心配とは裏腹に思ったよりも神輿の作業は順調で、完成を予定していた日より1週間くらい早く神輿を完成させることができた。また、神輿のメンバーの意見を取り入れながら製作した神輿は、当初自分が思い描いていた神輿よりも素晴らしい、満足いく神輿を作ることができた。

結果、体育祭での順位は、畜統の皆の手伝いもあり、自分たちが作り上げた神輿は世田谷・厚木の全学科中総合2位と素晴らしい成績を残すことができた。

神輿の作業では不安もあったがそれ以上に楽しく皆と作業をすることができた。それも奈須野、鶴澤、義高、甲斐田、里美たちのおかげである。このメンバーと過ごした時間は一生の宝物である。本当に皆最後までありがとう!!!



## 全ての経験がためになる

体育祭委員長

3年 柳原 美和

やっと終わった。正直、辛かった(笑)  
1年間ほとんど休みのない部門だった。2人ともよく頑張ったね。

統一本部はそれぞれの役割があって、みんなが一緒に同じ作業をするわけじゃない。だから、みんなと関わりが持っていて統一全員でつくり上げる体育祭を選んだ。みんなにも練習の時間を通してお互いの仲を深めたり、その時だけは役職のことを忘れて楽しんでほしかった。

どうでしたか？体育祭に参加してよかったですか？  
昼間の学校で友達と歩きながら振り付けの確認をしたり、私が作業中を通りかかると、突然「覚えた！」と踊って見せてくれたり：可愛すぎるよ、1年生。絡むと面倒な私にいつも話しかけてくれたり、上手に進まなかった練習の後には「俺達、頑張りますから、先輩も頑張ってください！」と励ましてくれたり：優しすぎるよ、2年生。今年も新たなことがしたくて、代表には無理難題を押し付けてしまった。悪い部分には思い切り批判して、その分良いところは何倍も褒めてくれた：3年生のみんな、いつも体育祭に積極的に嬉しかったよ。

何度投げ出したいと思ったか、何度逃げ出したいと思っ

## 豚と亥と城と・・・

櫓装飾委員長

3年 矢野 抄子

今から2年前の体育祭。何気なく先輩の手伝いをして、収穫祭・体育祭と参加してきた私を何よりも感動に導いたのは何でもない「櫓」だった。それはとても大きく、それでいてとても綺麗だった。「櫓をやりたい！」その時思った言葉だった。

櫓とは、収穫祭の最終日に行われる体育祭での応援席である。体育祭の採点対象ともなり各学科に設けてあり、パネル装飾は立体であったり動作が加わったりと、年々レベルが上がっていた。

私は「櫓委員長」という肩書きと「会計」の二役を任されていたため、とても不安でいっぱいだった。その不安をささず、みんなと楽しく作業をする事が目標でもあった。しかし、現実はそのなにかはなかった。私はいつも不安定で、いつも笑顔でいたか心配で仕方がなかった。そんな不甲斐ない私を支えてくれたのは、2年生の尾内くんだった。私たち



たか。こんなに不安定で自分勝手な私が最後まで続けられたのは、周りで支えてくれた人がいたから。同じ部門の2人には、相当な迷惑をかけた。佑太、会議ではいつも話が逸れて人生相談みたくなかったね。楽しかった。深く語れてよかった(笑)。私達に異見してくれて参考になった。あなたの温かさにはいつも助けられた。瑞恵、今まで何もかも一緒にの温かさにはいつも見捨てずにいてくれたね(笑)。2年間の活動中に何度か本ギレしたときは面白かったよ。いつも優しく側についてくれてありがとう。あなたがいないならば、私はあそこまで出来なかった。2人とも本当にありがとう。口うるさい女と頼りない男の集まりの3年にひたすら我慢してくれた後輩達、申し訳なかったね、ありがとう！3年同士ぶつかり合いも多かったけど、みんなで一丸となつて悩み、取り組めるようになったとき、「もう何があっても私たちの代は崩れることはない！」と確信した。

こんなに良い仲間に出会えたから、続けていてよかったと思える。

みんな本当にありがとう！！

は「失敗を成功にする」と毎日のように言っていた。失敗しても、それを成功にしまえば次につながる。ネタタイプな発言は禁止。少しでもポジティブに。お互いを刺激し合つて作業をしていった。毎日毎日、夜遅くまで作業は続いた。季節は秋。毎晩の作業は、とても寒くて堪えた。しかし、毎日が楽しかった。自然に笑顔が増え、不安は期待へと変わっていった。今年の櫓は私と尾内くんの二人しかいなかったけど、毎日のように手伝い

に来てくれる1年生や時間のある他部門の人たちが私たちを心配し、手伝ってくれた。櫓の作業場所は体育館下の駐輪場で、他部門のみんなとの作業場所と少し離れていてチョット暗い所にある。しかし、櫓の作業場所はいつも明るかった。そんな風に思えたのは、誰でもないみんながソコにいたからだと思っ！本当にみんな大好きです！この3年間、畜統に関わってきて・・・最高でした★

最後に、こんなバカで頼りない私を支えてくれた尾内くん。本当にありがとう！！結果は残せなかったけど、最高の豚と亥と城が出来ました。来年も全力で頑張つてね！応援してます。

☆2007年

## 畜統アートのモットー☆

装飾委員長

3年 宮本 明歩

『とにかく仲良く、楽しく!!!!!!』

こう考えたものいつから、何から始めたらいいかわからない。もっと剛さんのこと見ておけばよかった。

昨年の収穫祭は本当に楽しかった。先輩たちと終夜中に遊んだり、作業が終わらなくて体育館で寝たり、寝ることも食べることも忘れるくらい夢中になったあの2カ月は私にとって忘れられないものでそれ以上なんてもうないと思っただ。1、2年の畜統のみんなにもこう思ってもらえるような2カ月にしたいなあ。

『どうしようか?????』今年はこの言葉しか言っていない気がする。昨年度委員長の剛さんは偉大すぎて、自分が委員長になって自分の未熟さを感じた。今年も昨年と同じ3枚の絵画を収穫祭の約1ヶ月前から1週間ごとに掲げていこうという計画で、3枚目は学内に掲げる。作業は驚くぐらい計画通りに進んだ。正直言うと、計画通りに進みすぎて不安になった。



このままだったら呆気なく終わっちゃうよ。

あの台風の日に2枚目の絵が破れてしまって、守りきれなかった自分が無力ですごく悔しかった。いろんな人に迷惑をかけ、正直どうしたらいいかわからなくて。でも、委員長ってことでだれにも頼れないし、2年生の前では明るくしてなきゃって無駄に明るく振舞った。そんな自分を周りのみんなはさりげなく支えてくれた。このとき本当にここが自分の居場所だと思った。ありがとう。

すべてを終えて、こんな私と一緒に作業してくれたとまりとはるかには本当に感謝してる。この2人がいなくなったら何もできなかったし、作業中の女子高みたくないなノリはとても居心地が良かった。なんでも出来ちゃうとまりと、癒し系お姉さんのはるか。本当に大好きだよ。そして、キャラの濃い3年生。ケンカとかあったし、実際仲が良いのかわかんなかったけどこのシーズンを通して何かしらの絆はできたよね?? 黙って私達についてきてくれた2年生、1年生。少しは畜統の良さが伝わったかな???

最後になりましたが、第8回収穫祭を支えてくださいました顧問の信岡先生、野村先生、山口さんをはじめとする職員の皆様方にこの場を借りて御礼申し上げます。

## 家畜苑一家

家畜苑委員長

3年 石川 怜

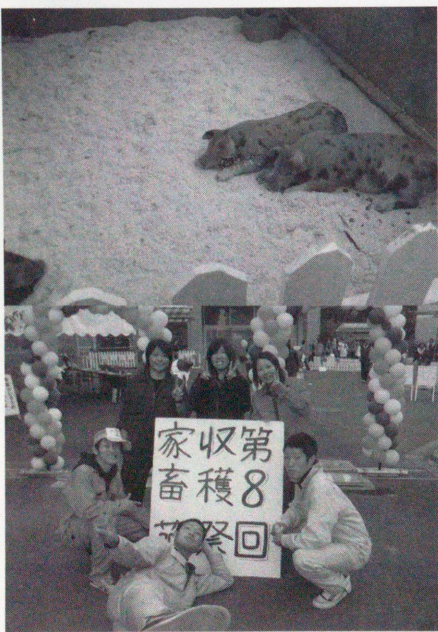
振り返ってみると失敗と反省の毎日でした...

何事も行動が遅くて怒られてしまったり、単管の組み方を間違えて迷惑かけたり、やりたいことも思ってることも全然形にならないし、喧嘩や衝突もあったし、『こんな何も出来ない私なんで委員長になっちゃったんだろ...』なんてことばかり考えてました。

それでも収穫祭は待ってくれないし、家畜苑をやりたくて今まで頑張ってきたし、『もう精一杯やるしかないよなあ』って最後の方は出来ることを自分たちらしくやろうと必死でした。

家畜との触れ合い、よりわかりやすく、そして見易さを重視したつもりです...家畜が来てからは目まぐるしく忙しい日々で正直あまり覚えていません...正直もつと色々出来ることがあったんだんぢやないかなって思うけど、それでも来場者の人から『毎年楽しみにしてます』『とても楽しかったです』『また来年も来ます』って声が聞けただけで疲れも悩みも吹き飛ばすくらい嬉しくて、やっぱり楽しかったなあって、家畜苑やって良かったなあって思えました。

トム・朋ちゃん・あつきー・のま・みっちゃん、色々



あつたけど私のわがままをいっぱい聞いてくれて、最後まで支えてくれて本当にありがとう。

三年間をまとめれば、家畜苑一家はとても楽しくて居心地が良かったです。

反省と失敗ばかりで何も残してあげられなかったけど、次はきつと三人にしか出来ない新しい家畜苑が出来るのでは...と楽しみにしています。

最後になりましたが、第8回収穫祭家畜苑に御協力して下さいました先生方、各研究室の方々、富士農場の方々、練習生の方々、統一本部のみんな、家畜たち、本当にありがとうございました。皆様の多大なる御協力のおかげで無事に終わることができました。

第9回収穫祭家畜苑も御協力よろしくお願い致します。

編集後記

今年も『ふじみの第44号』を発行することができました。  
昭和36年に第1号が発行され、発行を停止した時期もありましたが、今までの伝統を引き継ぐことができました。

今年の収穫祭も大勢の方が来客してください、厚木キャンパスの良いところをより多くの方々に知ってもらえたいと思います。

また、バイオセラピー学科の増設から2年が経ち、学校にも活気があふれてきたと感じます。農学科・バイオセラピー学科・畜産学科の3つの学科が協力しあい共に切磋琢磨していくことを期待しています。

この「ふじみの第44号」が今後の畜産学科の更なる発展を担うものになれば幸いです。

最後になりましたが、この一冊を発行するにあたり、お忙しい中原稿を書いて頂いた先生方、学生の皆さん、ならびに会員の方に深く御礼申し上げます。

編集委員長 久保田 朋美



平成20年3月20日 発行

“ふじみの”第44号

ふじみの執行委員 久保田朋美  
尾内 泰徳

発行者

神奈川県厚木市船子1737  
東京農業大学農学部畜産学科畜友会  
電話 046(270)6228

印刷所

神奈川県厚木市栄町1-15-15  
有限会社 藤野印刷所  
電話 046(221)3029

表紙写真撮影者：畜産学科2年 野間口 俊二

